

授業とは何をいうか

—奈良の学習法における構造的把握後：真理体としての実践—

溜池 善裕

宇都宮大学教育学部教育実践紀要 第5号 別刷

2018年8月3日

授業とは何をいうか[†]

—奈良の学習法における構造的把握後：真理体としての実践—

溜池 善裕*

宇都宮大学教育学部*

子ども達は学習を通して構造的把握に到達するが、その後、共同学習に位置づけられることで、自らの学習を一人学習に転換し、学習することがら、つまり真理を明らかにしようとするのである。けれども、真理に到達した子どもに課せられるのは、その後の実践なのであり、その実践につながってこそ、奈良の学習法におけるしごと、つまり本当の意味での社会科の学習となったといえるのである。

キーワード：奈良の学習法、しごと、真理、真理体、実践、矛盾

0. 目的

本稿は、雑誌『考える子ども』に連載中の、「問題解決学習から『しみじみとする授業』へ (19)」¹において触れた、一人学習が、相互学習を通して共同学習に連なっていく時機と、その時機を契機になされる子ども達の動きすなわち道徳的実践性の具体像、学習が生活実践としての学習へと転換される、子ども達の学習の事実を明らかにするものである。

個人の学習は、一人の学習のままでは独善的で一面的なものとならざるを得ないが、それは学習が持つ特性であり、学習が人間の営みである以上、人間の営み全般がもつ、免れない性質の反映である。したがって、独善性から学習を解き放ち、多くのことがらや様々な人々とつながろうとし、また実際につながる。柔軟性と伸縮性をもつようにすることは、学習指導の根本的な目的である。

そして、子ども達が獲得すべき知識・技能・あらゆる存在への尊敬と畏敬の感情・道徳性は、そのような学習指導の根本的な目的の下に位置づけられなければならないのである。なぜなら、これらの総体

は、人間を独善性から解き放つ、高遠な人間の歴史的営為において見出され、存続されているものであるから、そのような営為がなされるのと同様な構えが作られなければ、獲得されまた系統化されることは、到底あり得ないからである。苦しみと哀しみと喜びと、それらの連続において、その刹那に生まれる地模様があるからこそ、知識・技能・あらゆる存在への尊敬と畏敬の感情・道徳性は見出されるのである。学習はそのような地模様があらわれるように構成され、計画され、行われなければならないのであり、それらの子ども達へのはたらきかけの総体が、学習指導なのであり、またそうでなければ、次期学習指導要領の言う「学びに向かう態度」や「人間性の涵養」が実際のものとなって、眼前にあらわれることはないのである。

さて、独善性という特性から学習を解き放つのは、一人の学習を集団における学習に位置づけ、学習全体を一人学習・共同学習として構造化した学習指導においてである。このような学習の位置づけによって、一人の学習は、集団の学習との関係において相対化されるとともに、集団の学習すなわち共同学習に向けた一人学習として転換され、独善性は解消に向かうからである。

しかしながら、一人の学習を共同学習に位置づけ、一人学習に転換するという考え方は、論理的にそうなるべきであるという理屈であって、実際にそのようになることが確かめられなければならないことは言うまでもない。

[†] Yoshihiro TAMEIKE*: What is a lesson?; A Study on Life Practice by Children who Reached Structural Understanding by "Learning Method of Nara"

Keywords: "Learning Method of Nara", Shigoto, Social Studies, Truth, Child who became a truth, Life Practice, Contradiction

* School of Education, Utsunomiya University (連絡先: tameike@cc.utsunomiya-u.ac.jp)

そこで、本稿は、子ども達がどのようにして、一人の学習を一人学習に転換し、それを共同学習に位置づけるのかを一人学習・共同学習という学習構造を持つ奈良の学習法におけるしごと学習の学習指導において、子どもの事実をもとにそれを確かめ、また、そのように位置づけられることで共同学習はどのように深化し、そのことを通して一人学習もまたどのような深まりと広がりを見せるのかについて考察し、明らかにするものである。この考察にあたっては、奈良女子大学附属小・3年月組の子ども達の学習の事実を手がかりとする。

1. 「しごと」学習の概要 (2月9・10日に至るまで) (1)「奈良のシカ」との出会い

奈良女子大学附属小・3年月組 (担任・薄田太一) は、4月から奈良をテーマに「しごと」の学習を開始した。その後、5月7日の保護者参観で「奈良のすてきを見つけよう」が、一人ひとりの子どもによって発表され、この学習とのつながりで、5月9日に、3年生の学年遠足「奈良の街を感じよう」が実施された。この遠足の前に、社会科の地図学習をしていたため、配布された地図の記号と実際の街を対照しつつ、奈良市役所・船橋商店街・東向商店街・奈良地方検察庁・奈良県庁をたずね、市役所ロビーにある平城宮の復元模型のジオラマを見たり、商店街では、それぞれの商店について、売っているものや一番売れているもの、売り方、おすすめの商品、その歴史についての、詳細な聞き取りを行ったりした。子ども達の中には、二つの商店街の違いやその理由の考察につなげる子どもなど多様であった。また奈良県庁では、県庁職員の仕事の具体的内容等について、詳細な聞き取りがなされている。子ども達の日記からは、さまざまなものに興味を持ち、それについて調べていこうという意気込みが伝わってくる。

その後、子ども達の中には、奈良と京都の違いや、大和野菜、春日大社とシカについて調べる子、もう一度東向商店街に行き、その名前の由来を聞き取り、興福寺と関係ある事が分かると、興福寺の本坊に行き聞き取りをするとともに、江戸時代までは春日大社興福寺として広大な土地を所有していたが、明治維新になって神仏分離・廃仏毀釈により、その土地を没収され、そこが奈良公園になったことなどを聞き取っている子が出てきた。

遠足の1週間後、5月16日に「奈良を感じよう」

が実施された。この話し合いの中では、最初の2人の子どもが大仏について発言したあとは、「奈良のシカ」の話題で持ちきりとなり、途中で大和野菜や県庁についての話題が出るがすぐにシカに話題が戻され、「奈良のシカ」は神の使いだという発言で終了する。この学習を受けて、翌17日には「なぜシカはありがたいものなのか」が話し合われ、この2回の学習をきっかけにして、「しごと」学習の方向性は「奈良のシカ」に向けられることとなった。

さっそく、奈良公園や周辺地域の鹿の保護・管理にあたり、保護施設・鹿苑を経営する、財団法人・鹿愛護会に聞き取り調査に行った子どもがおり、5月24日と25日には、その内容を発表し、おたずねをする時間がとられている。子ども達のシカに対する興味や動きは次第に活発となる中で、6月2日の「子ジカ公開」のポスターが公民館に貼ってあるのが発見され、それが鹿愛護会や鹿苑と関係があることを突き止めた子どももいた。

このような子ども達の動きを受け、6月2日には、奈良公園のシカの収容施設である財団法人・奈良の鹿愛護会が管理するシカの保護施設・鹿苑での「子ジカ公開」に合わせた見学が行われた。そこでは、シカの出産場面に立ち会い、加えて鹿愛護会の人への聞き取りも実施された。

(2)「奈良のシカ」の教材性

3月の「しごと」学習において、1年間取り組まれるのが、「奈良のシカ」である。「奈良のシカ」は、春日大社境内や興福寺周辺等、奈良公園平坦部一帯に生息するシカのことを指す。

「奈良のシカ」をめぐるのは、春日大社から文化財保護委員会に提出された「天然記念物指定申請書」(1957年)で<半野生>性が評価されて天然記念物に指定される一方、鳥獣保護法所轄の奈良県鳥獣課による別規定が、奈良のシカをめぐる様々な問題を生じさせている²が、その一つがシカによる食害被害をめぐる問題であり、その代表的なものが、いわゆる奈良・鹿害訴訟・第一審判決である。

奈良の鹿は、古代から春日大明神の使いあるいは大明神そのものとして神格化され、「春日大社の鹿」と称され、奈良市民等から親しまれ共存してきた。第二次世界大戦前、約900頭生息していた鹿は、戦後の飼料や食肉の問題等から急速に減少し、1945年には79頭にまで激減した。しかし、奈良の鹿の保護育成事業を行うことを目的として戦前に設立された

鹿愛護会の活動、奈良の鹿に対する国の保護（昭和23年における天然記念物の仮指定、昭和32年の天然記念物の指定）によって、その頭数は増加した³。

具体的には、1975年までには約900頭まで回復し、1980年から2017年にかけては1000頭から1300頭の間に推移しており⁴、現在の「奈良のシカ」の生息頭数の詳細は（表1）のとおりである。

さて、判決では、春日大社は、奈良の鹿につき文化財保護委員会に対し天然記念物指定の申立てをしているが、その際の申立書には、奈良の鹿の所有者として春日大社が記載され、同委員会は、奈良の鹿を昭和32年9月18日付で指定地域を定めることなく「奈良のシカ」の名称で天然記念物に指定し、官報で公告したうえ、その旨を春日大社に通知していること、また現在、天然記念物に関する事務を所掌している文化庁においては、奈良の鹿の所有関係につき、申立書の記載内容を前提として事務処理を行っていること、さらには、奈良の鹿が天然記念物に指定された後においても、春日大社は奈良の鹿を有償ないし無償で第三者に譲渡し、また、奈良の鹿を轢いた自動車の運転手や、それを捕獲したり殺したりした者から埋葬料名目で相当の金員を受領している事実、さらに加えて、昭和41年頃、奈良の鹿を捕獲・毀損した者が、文化財保護法違反、窃盗罪として起訴された事件の審理に際し、当時の春日大社の官司が、奈良の鹿は春日大社の所有である旨証言していたことから、奈良の鹿の所有者は春日大社であると認定された⁵。

（表1）

奈良公園内生息頭数

奈良公園のシカの総数	1498	△43
総頭数	1226	△46
雄シカ	261	△25
雌シカ	731	△16
子シカ	234	△5
鹿苑内保護収容頭数		
総頭数	272	▲3
雄シカ	156	▲12
雌シカ	120	△9

年間死亡頭数

（2016年7月16日～2017年7月15日）

年間死亡頭数	（）は公園外	
総頭数	416(216)	△75
雄シカ	156(107)	△35

雌シカ	125 (71)	△10
子シカ	135 (38)	△30
主な死因		
交通事故	91 (34)	△10
疾病	206(133)	△32
野犬	0 (0)	▲2
その他	119 (49)	△35
交通事故発生件数及び地域		
大仏殿交差点～高畑交差点	30	△12
県庁東交差点～奈良ホテル	28	▲5
県庁東交差点～近鉄奈良駅前	14	▲6

△増▲減

（平成29年度「奈良のシカ」生息頭数調査について：一般財団法人奈良の鹿愛護会HPpdfより作成）

そのため春日大社は、鹿による農業被害を防止するために適正頭数を調査・算出し、文化財保護委員会の許可を得た上鹿を他へ移転させる等、適正頭数を保つべき義務があること、また、鹿が適正頭数を超えて増加した場合には、移転措置や、田畑の周囲に金網を張ったり公園内の鹿にえさを供給するなどにより公園外への逸脱を防ぎ、その被害発生を防止すべき注意義務があると認定された。こうして農作物に被害を与えたときは、民法709条により、その損害を賠償すべき義務があると判決されたのである。

鹿害訴訟和解後には、「奈良のシカ」の管理の枠組が和解規定に盛り込まれたが、和解規定と県鳥獣課規定が併存した結果、京都府南部などの旧奈良市外におけるシカの逸出によって、京都府には「奈良のシカ」はいないために鳥獣保護法のみで捕獲される一方、捕獲者に対する文化財保護法違反への懸念を払拭できない問題等を顕在化させている。また、これらを背景として奈良県は、奈良市東部での捕獲計画を策定し、120頭を上限とする捕獲計画を2017年に発表しているが、2017年度の捕獲実績は19頭にとどまっているのが現状である⁶。

「奈良のシカ」は、春日大社との関係において、歴史に息づきつつ野生のシカとして奈良公園を中心に生きているがゆえに神鹿であり得るが、それゆえ保護目的で天然記念物ともなり、一方で増えすぎたシカによる農作物の食害といういわば人間の生活との齟齬をきたしているのである。加えてまたその齟齬の解決が、法律や規定の齟齬を生み出し、「奈良のシカ」の問題を複雑にしている。このような、いわば矛盾に満ちた複雑な構造の中にあっても、「奈良のシカ」は、シカである以上、群れとして移動し、

繁殖の時期を経て子を産み、一方で奈良公園では人間と不可避に接触することで、観光客に危害を加えたり、心ない観光客によって被害を被ったり、群れの移動と車の移動時間が重なることで交通事故に巻き込まれ、周辺地域での網にかかって捕獲されつつも、しかし、シカとして生きているのであり、その生活は奈良の鹿愛護会の活動に不可欠に支えられているのである。

一方、鹿愛護会の活動は、「奈良のシカ」の保護育成・保護事業のための調査研究・保護思想の普及及び啓蒙・生息環境保存のための活動及び環境教育・伝統行事の継承・施設や設備の整備等、多岐にわたっているけれども、その活動を3名の事務職員、7名の現場職員（うち1名は事務も担当）でまかなっているのが現状である。加えて、現場職員は、24時間体制で、生息域内の巡回・負傷及び疾病鹿の救助や救出、通報による保護出動、死亡鹿の処理にあたり、その活動は公園内のみならず周辺地域も含みきわめて過酷である。また、財団法人・奈良の鹿愛護会の運営は奈良県・奈良市・春日大社からの補助金に加えて、寄付金・協賛金・募金、イベント等の収益でまかなわれているが、その支出には、2012年においては地域保全推進費（災害対策費）として、鹿愛護会から鹿害阻止農家組合へ支払われる補助金が含まれ、予算は必ずしも十分とは言えないのである。

このような矛盾に満ちた「奈良のシカ」は、とくに子ども達が、矛盾の中にあってもシカの生命を守るためには活動を続けなければならない、鹿愛護会の方々の取り組みと、そのひたむきさに注目することを通して、それを知った自分に何が出来かに行き着くことで、シカと共存していくべき、同じ生き物としての自分と向き合い、その意味で「しごと」学習の教材として十分な重みと厚みを持つのである。

(3) 夏休みを前後する子ども達の動き

以上のような教材の性質を反映し、夏休み前には、シカの食害による農作物被害を受けている奈良市須山町での聞き取り調査、奈良公園のシカの観察を通して実際にシカがどのように移動するかの調査、春日山原生林におけるシカの群れの子シカと母シカの調査、公園周辺の交差点において交通事故死したシカの調査、シカの収容施設である鹿苑での聞き取り調査、鹿苑での鹿寄せでの聞き取り調査等が一人学

習されている。これらの一人学習に見られる特筆すべき点は、本を読んで調べた、聞き取り調査をした等、事実の出どころを明記している点であるが、これは、薄田による1星の「近鉄学園前駅」を取り上げた実践や、2月での野菜の専業農家に学びながら「野菜作り」をした「しごと」学習の成果であろう。

夏休みになると、奈良公園での鹿愛護会による鹿寄せ、朝日新聞社のデータベースによる宮島のシカの被害に関する事前調査を踏まえた広島県・宮島のシカに関する現地での聞き取り調査、シカのイベントでの愛護会への聞き取り、天然記念物であるイリオモテヤマネコの調査、奈良市民だよりにあるシカの交通事故死調べ、奈良公園での観光客への聞き取り調査、奈良県庁奈良公園室への聞き取り調査、奈良市茗荷でのシカの食害の聞き取り調査、奈良公園のシカの糞を食べるルリセンチコガネの調査、若草山登山口のお店でのシカの群れについての聞き取り調査、奈良公園管理係への天然記念物のシカの駆除についての聞き取り調査、春日大社に鹿を献上していた鹿野町スサノヲ神社の調査等、1年生、2年生には見られなかった、多岐にわたる数多くの調査等が行われ、それが一人学習されている（巻末・表A）。

（表A）からわかるように、子ども達の動きは多岐にわたりつつも、それぞれの問題については継続的でありまた執拗である。このことは、子ども達が「奈良のシカ」を深いところで受け止め、その問題を我が事とするとともに、その本質を解明しようとしていることを意味する。

(4) 9月から12月までの子ども達の動き

夏休み明けの、9月5日・6日には、「これからの学習」が実施されている。この学習を通して、あらたに調べたいこととして、奈良公園の遠くでシカが駆除されるのを鹿苑の人たちは見てるだけなのか（9月5日、B）、でも鹿愛護会の人たちは奥深く考えているのではないか（9月5日、L）、シカの気持ち（9月5日、EF）、シカによる農作物の被害（9月6日、V）、鹿愛護会・鹿苑・奈良公園の3つの施設の大変なところ（9月5日、W）、鹿苑の人の1日・捕獲目的と頭数管理のためシカの行動を観察するだけなのか・もうけるのは誰か（9月6日、F）、シカはそのお金で安全に生きていけるのか（9月6日、J）が子どもの日記には記載されている。これに加えて、9月5日には「シカは人間にとって何なのか」（L、9月5日）という、きわめて根本的な問題が子どもに

よって提示されている。

この頃から子ども達の日記には、「私たちにできること」という記述が見られ、加えて、実際に鹿苑に収容されているシカのために、食糧となるどんぐりを友達と集める動きが出始めている。このような子ども達の動きは、夏休みまでの一人学習によって、奈良のシカの本質に迫り、そこに見出される問題と矛盾には気づいたとしても、今現実目の前に生きているシカのためにすべきことを実践しようとする自然な動きだと考えられる。

後半の相互学習は、子どもが最終的に自分と向き合って考えるところまで行くよう、相互学習が位置付けられ、何度か実施された。(表3)

ここに生じた現象は、夏休みや9月以降の子ども達の、継続的で執拗な調査と、「奈良のシカ」の問題の本質を明らかにしようとする動きとは、十分に関連性のあるものではなかった。なぜなら、子ども達においては、シカが死んでしまう現状を何とかしたいという思いが強く働き、ポスターを作る、看板を立てる、チラシを配る、よびかける等が、様々に提案されるという動きが起こったからであり、これらの動きは、実際に、鹿愛護会の活動についてその事実を調査している子ども達にとっては、「すでにやっている」ことがわかっているはずだからである。

(表3)

10月17日	奈良公園のシカの交通事故
10月24日	自由研究発表「シカの保護費」「シカと人間との関わり」
11月2日	シカとの共存
11月14日	鹿愛護会石川さんにインタビュー
11月22日	Fくんの発表(鹿愛護会ではたらく人の1日・観光客・シカの交通事故)
12月5日	Zさんの発表(鹿愛護会の石川さんにインタビューしてわかったこと・人手不足とお金不足・シカのことを知ってもらう)
12月13日	12月6日の新聞(鹿の交通事故)を読んで考えた事
12月14日	これからの学習をどうするのか
12月15日	これからの学習をどうするのか

たとえば、12月13日に筆者が参観した相互学習は、奈良公園の鹿の交通事故についての12月6日付の奈良新聞の記事をもとに学習を深めようというものであったが、話し合いで出される意見は、上記のような「すでにやっている」はずの対策であった。また、これについて、学習開始の36分を過ぎて、Cくんが、

「速度制限などの看板はもう作っている」と発言するのであるが、この発言は十分に受け止められず、時間切れで終わるのである。この日の日記には「これだけたいさくやよびかけをしているのにどうしてシカのひがいがへらないのか」(12月13日、M)のように、問題を深いところで受け止めている子どもはいたのではあるが、それを発言するにはいたっていないのである。総じて、この日の学習は、「すでにやっている」のではあるけれども、新聞記事にある「奈良のシカ」の交通事故死についての対策という、話し合いやすい内容にひっぱられ、そちらに流れてしまったのである。

そこで実施されたのが、12月14日、15日の「これからの学習をどうするか」の話し合いである。この学習を通して、この日の子ども達の日記、「あいご会はいろいろ方ほうを考えていますが、もっと方ほうを考えて!という事になるので、3月が方ほうを考えてあいご会に伝えるのはどうかな?と思います」(12月15日、EF)、「ポスター、かんばん、呼びかけなど、シカの交通事故のために、対さくをしているのに、なぜ事故がへらないのかふしぎです」(12月15日、GH)にもあるように、様々な対策を立ててそれを実行しても、問題はそれほど簡単には解決しないという問題に、子ども達は向き合うこととなったのである。

子ども達に課せられたのは、夏休み以降に執拗に調べ上げた、「奈良のシカ」に関する多様で詳細な事実をもう一度整理し、それを、簡単には解決しない問題の解決につなげることであった。したがって、冬休みの一人学習は、夏休みの学習とは比べものにならないほど、子ども達にとってむずかしいものであったのである。(巻末・表B)

(5) 最後の共同学習(3月16日)まで

冬休みに子ども達は様々に一人学習を行い、それをもとにして、1月17日以降の相互学習が実施されている(表4)。

(表4)

1月17日	シカを守るかんきょうがなぜよくなるのか
1月23日	EFさんの発表(交通事故が減らない、石川さんが言った「本当にできるかわかりません」。T「自分以外のことを考えすぎじゃないですか。自分の事も考えてみましょう」)

1月26日	Fくんの発表を聞いて考える（2月2日の体験学習に向けて）T「愛護会の人たちは、ちらし、ポスターを配るのが一番大切なのかな？」
2月5日	校外学習に行き行って思った事・考えた事
2月6日	2月5日の話し合いをして
2月7日	2月5日の話し合いをして（1時間目、5時間目）
2月9日	シカのことを知ってもらうとはどういうことだろうか（学習研究会1日目）
2月10日	同（学習研究会2日目）

この（表4）の1月23日、26日からわかるように、子ども達の学習は、この日も12月13日同様、「奈良のシカ」の事故を減らしたりなくしたりするためにはどうすれば良いかという、具体的対策について考える事に終始しており、1月23日のT「自分以外のことを考えすぎじゃないですか。自分の事も考えてみましょう」、1月26日のT「愛護会の人たちは、ちらし、ポスターを配るのが一番大切なのかな？」という、薄田の方向づけがなかなか功を奏しないのである。こうした中、自分たちに何が出来るかに子ども達を向かわせ、出来る事が何かを考えたり確かめたりするために、2月2日の校外学習が計画され実施された。

学習研究発表会における、2月9日と10日の連続の共同学習、「シカのことを知ってもらうとはどういうことだろうか」は、その1週間後ということもあって困難をきわめることとなり、このうち、2月9日の共同学習は、大要、次の4分節で構成される話し合いの授業となった。

第1分節：1日直～9F

観光客に何を伝えるか

第2分節：11EF～17A

知らない人にどうやって伝えるか

第3分節：18Q～29F

シカに本当に興味のない人は奈良公園に来なくて良いのではないか

第4分節：30C～39日直

奈良公園に来るということはシカに興味を持っているということではないのか

この分節のつながりから了解されるように、第1分節が人に伝えることがら出発したために、どうやって伝えるかに第2分節までを費やしてしまったため、第3分節からは話を本題にもどそうとしたのではあるが、後半の2つの分節だけでは戻すことが

できず、結果的に「シカのことを知ってもらうとはどういうことだろうか」に、共同学習は十分迫ることが出来なかった。

翌日の共同学習の直前には、約30分の相互学習を実施し、その日の共同学習の方向づけを行ったが、その相互学習もまた、前日に問題になった「興味のない人は奈良公園に来なくて良い」についての話し合いとなってしまった。そこで薄田は、「知っているんですかってことですよ」として、学習する「知っているとはどういうことか」につなげる発言をしてその学習を位置づけ、相互学習を終了させた。

前日の共同学習と直前の相互学習を受けた2月10日の共同学習は、次のように進んだ。

1W 相手がどんな人かによるので、いちかばちかではないか。

2EF シカと人間が信じ合うというキーワードを保てるようにしっかりと伝えていくことではないか。

3I 相手が興味を持つことを言えば聞いてくれるのではないか。

4K 伝えるためにはどうすればいいかを考えることなのではないか。

5OP ゴミをあげる観光客は悪くないので、そういう観光客に伝えることを考えるべきではないか。

6M 知っている人の役目が知らないってものを伝えることなのでは。

7P ほかもそう思う。

8I 観光客は外国のきまりなどがわからないだけだから無理矢理には言わないことなのでは。

9Q 愛護会の事務長も愛護会の教え不足と言っていたから観光客が知らないのは当たり前ではないか。

10L 観光客が知るべきことはパンフレットに書いてあるのではないか。

11B 悪気があるとなかろうと観光客のしていることは悪いことではないか。

12GH 奈良に行くのなら観光客はいろいろと調べておかないといけないのではないか。

13C 知っている近所の人に「それはあげてはいけないよ」って言われてすごく心に残っている（ので、伝えないといけないのでは）ので、伝わる時と伝わらない時があるけど伝えないといけないのでは。

- 14A 観光客は常識を知らないのでは。
- 15G 愛護会は伝えるためにできるだけのことをしているのでは。
- 16Z 観光客が知ろうという気持ちを持てば、共生につながるのではないか。
- 17O 愛護会は出来る限りの事をしているから局長さんの言うことはおかしいのではないか。
- 18T 局長さんが言っていることはどういうことなのか。
- 19K 局長さんは愛護会が伝えることの重要性を言っているのではないか。
- 20B 観光客はゴミを食べさせてシカを殺しているのだから観光客が悪いのでは。
- 21T ゴミを食べさせようとしているのかな。
- 22B 要らないものや野菜を与えている。
- 23T 愛護会は観光客が悪いって言うてはいないのでは。
- 24L 伝えられた方が本当に興味をもたなければ何にもならないということを局長さんは言っているのでは。
- 25J 観光客が調べても見つからないないことだっであるのでは。
- 26L 見つかるまで探すべき。
- 27J しょうがない側面もあるのでは。
- 28F 努力をして続けていくしかないのでは。

ここに見る限り、1Wから7Pまでは、知るとはどのようなことかに向かって話し合いが進んで行くのであるが、8Iから観光客が悪いかどうかについてに移っていく。これを16Zが戻し、観光客も知ることができれば共生につながるとして、本単元の中心に向け舵を切ろうとするのである。この学習にとって重要な視点となる、9Qの言う事務局長の話に注目する17Oの発言があり、そこに立ちどませようとする意図的な18Tの出があるが、その後、やや感情的な高ぶりにある20B発言、それをやわらかく受け止め、冷静さを取り戻させる21Tがあって、24Lがそれにつなげ、28Fの言う努力して続けていくしかないというところで、本時は終わるのである。

この共同学習では、シカを救いたい一心で学習してきた子ども達だからこそ、シカせんべい以外のものを与えてしまう観光客にあまりよくない感情をいだき、その感情を抑えることが出来ない子ども達がいるという、3年生の学習としては当然前の状況

が見出される。しかし、少しでも冷静にあらうとし、共生に向けて考えようとする、子ども達であることは、8Iが話を戻した後で、戻った話を16Zが修正し、17O、24Lがそれを支え、27Jがそれを受けて事務局局長の言っていることの本質に迫る発言をして、28Fの当たり前を続けるという、見事なまでの助け合い協力による連携から、即座に理解する事が出来る。28Fの発言は、ごくごく当たり前で当然の内容であるが、「奈良のシカ」の学習において、最も重要な真理であり、子ども達はすでに、その真理に到達していることが了解されるのである。

2月10日の学習は、話を戻したり修正したりという部分があるけれども、それは新しい局面を作るまでには至らず、全体として、助け合い協力の著しい、1つの分節として位置づけるべきであろう。したがって、前日の第4分節に続く、第5分節が、この日の共同学習であると考えられる。

2日間でここまでの学習に到達したのであるから、3年間観察と記録を続けてきた筆者としては、この子達の成長と今年の頑張りには目を見張るものがあるのであり、これで十分ではないのかと思えるのであるが、おそらく子ども達にしてみれば、本時の共同学習は、ここまで来たのなら、もっと時間をかけて、この先に行きたいというのが本音であろう。

実際には、国際の学習で、英語を使って奈良公園の外国人観光客に「奈良のシカ」のことを伝える学習をこの後、数時間実施し、それを実際に行う校外学習を3月14日に、奈良公園において行っている。その後、3月15日に「シカのことを知ってもらおうとは：しごと学習のふりかえり」を実施し、前日の学習を含めた1年間の学習の振り返りを行い、翌16日に、最後のしごと学習「シカのことを知ってもらおうとは」を実施している。

その日の日記を見てみると、「1年をふりかえって、大切なのは、2つだと思います。『自分から動く(伝える)』『身のまわりの人に広めてもらう、分かってもらおう』です。伝える方法、①自分から話したり、学習した問いに答える。②記ろくを見せる。③分かてもらおう。④『伝えてよ』と言う。⑤自分も伝える(⑥相手にも伝えてもらう)です。⑥は、もしかしたらできないかもしれません。でも、自分は、動いて、伝えて行きます。(F)」のように、しごと学習の最終的な目標、分かるということのその先にある、行うということに到達している子どもが何人もいる

ことが確認できる。

したがって、2月10日における、もっと時間をかけてこの先に行きたいという子ども達の思いは、最終的には達成されたものと推察されるのである。

2 一人学習から共同学習へ

(1) 夏休みと冬休みにおける一人学習の違い

1年間のしごと学習を見たときに、一人学習が共同学習へと向かうのであるから、共同学習へ向かうことで、一人学習の質がどのように変化するかをとらえる必要があるだろう。

まずそれを大きくとらえるために、(表A)(表B)を参照して、夏休みの一人学習と冬休みの一人学習を比べてみよう。

夏休みの一人学習を通覧して分かるのは、シカについて調べるための、多様な聞き取りをさかに行っているという事実である。ここにあがっている日記は26名分であるから、実在籍している子ども35名中の3分の2以上が、シカに関する何らかの一人学習を行っているのである。

この日記を聞き取り・考察・その他で分類してみよう。すると、分類別に、聞き取り・35、考察・17、その他・21、総数・73となる。冬休みの一人についても、同様の分類を行うと、聞き取り・8、考察・9、その他・1、総数18となる。

両者を単純に比較することは出来ないが、総数としては、夏休みの方が多く、その数は冬休みの約4倍であることが分かる。夏休みは長期であることもあって、子ども達の一人学習が多くの日数をかけて連続的に行われやすいということもあるが、それは、一人学習が継続的かつ執拗であることのあらわれであり、同時に、それだけ数をこなさなければ調べようとするところの本質には行き着かないということでもある。

そのように考えると、冬休みは明らかにすべき事柄が決まっいて、それを聞き取ったり、考察するために、正確に目標を定めて聞き取りをしていることが示唆されるのである。

(2) 冬休みの一人学習は何のために

では本当に、冬休みの一人学習が、正確に目標を定めた聞き取りや考察となっているかを確かめてみよう。聞き取りは、大要、鹿愛護会においては、私たちにできること(①)・共生(共存)とは(②)・予算について(③)シカを減らす方法(④)・シカ

の交通事故(⑤)・大変なことや困っていること(⑥)、その他(⑦)である(表中の同一番号箇所参照)。

これは、大きく言えば、共生・共存(②)、鹿愛護会の年間予算と活動の実態(③⑥)、子どもにもできること(①)、交通事故対策とその実効性(⑤⑥)の4つである。

鹿愛護会の年間予算と活動の実態は、すでに聞き取りをして分かっているはずであるから、それほど聞き取らなければいけない内容ではないはずである。したがって、その上でさらに聞き取ろうとしているのは、単なる事実ではなく、どのような意味のある活動が、どんな条件のもとでおこなわれているのかという、鹿愛護会の方が本当に苦労されていることがらであろう。また、交通事故についても、愛護会同様にすでに事実を確かめているはずであるから、その上で確かめようとしているのは、具体的な対策にどれほどの実効性があるかという確信的な事実である。そしてまた、この両者に共通するのは、シカと人間との共生には、どんな苦労や具体的問題があるかという問題関心である。つまり、共生への直接的な問題関心の反映が共生について聞き取りや考察なのであり、共生のために、最終的に子どもの自分たちに何が出来るとかという問題関心が、子どもにできることについての聞き取りなのである。

以上のように考えると、子ども達の冬休みの一人学習は、すべてが、「奈良のシカ」と人間との共生に向けられていることが了解されるのである。

加えて、鹿愛護会への聞き取り(1月2日、4日、5日、6日、9日)、奈良県庁公園室や道路環境課での聞き取り(1月4日)のように、正月中または、正月明け早々に聞き取りに出かけていることから考えると、子どもの一人学習には切迫性ゆえに必然性があるものと考えられる。

したがって、抽象的ではあるが、共生に向けて何が出来るかについて、哲学的でありながら具体的な一人学習を冬休みに展開していることが判明するのである。

子ども達の学習は漠然としたものではなく、冬休み明けに行われる、集団で学習する共同学習に際して、共生こそが、みんなで明らかにしようとすることがらであることを意識し、それが明らかになるような一人学習を展開しているのである。

(3) 冬休みの一人学習の方法を決定するもの

それでは、冬休みの一人学習において、聞き取り

をしている子どもと、考察をしている子どもについて、一人学習のそのような方法の違いが何によるものであるかについて、2人の子どもの学習の来歴を手がかりに考えてみよう。

(巻末・表C)を見てみよう。これが、一人学習で考察をしたCDさんと、聞き取りをしたMくんの、日記・ノートのうち、薄田によって選択されたすべてのものである。そこに書かれた内容は、抜粋したものもあれば、全文をそのまま引用したものもあるので、条件は同一ではない。

さて、CDさんの学習では、フィールドワーク(6月11日, 10月21日, 10月29日), 観察(7月11日, 7月15日, 8月6日, 9月11日, 9月18日, 10月1日, 10月8日), 聞き取り(5月27日, 1月28日)をし、また考察(6月10日, 6月12日, 9月3日, 10月7日, 10月8日)をしたりする中で、分かることがらがあり、それを見出す喜び(9月22日)を感じて、それが「大発見ノート」という言葉に表れていることが了解されるのである。

これに対して、Mくんは、学習で意見を言おうと思ってもなかなか言えず(4月19日)、友達の記事のすごさに教えられ(4月26・27日, 5月17日)、また友達に助けられ(5月16日)、先生や友達の言葉をきちんと受け止め(5月22日, 5月26日, 9月24日)つつ成長し、ようやく少しずつではあるが、学習を作ることが出来るようになっていく(7月2日, 9月5日, 9月27日)のである。そして、学習ができるようになった自分をためしつつ聞き取りを行い(9月24日, 9月29日, 10月8日)、その中で学習ができるようになった自分を確かめているのである(11月2日)。

したがって、11月以降のMくんは、学習で意見を述べたり、自分の予想にしたがって聞き取りをしたり、その中で分かっていく自分を分かり、相対化していると言ってよいであろう。

11月以降がこのように、自分を分かり、相対化するプロセスとして位置づけられるとすると、CDさんが、冬休みの一人学習で、シカの習性と交通事故について考察するのきわめて自然だと考えられる。CDさんのフィールドワークや観察は、そのほとんどすべてがシカの行動や習性についてであり、それが春日山原始林の被害(11月2日)についての考察に結び付けられてはいるが、交通事故に結びつけられたのは、1月28日になってである。CDさんは、

冬休みの考察をもって、自分のこれまでの一人学習が、「奈良のシカ」そのものの行動や習性に閉じ、「奈良のシカ」と人間との共生には十分およんでいないことを発見し、共生について考えるためには「奈良のシカ」の行動や習性と、交通事故を結びつけて考えることが不可欠であると分かって、冬休みあけの1月にそれを開始したのである。

したがって、冬休み中のシカの行動や習性と交通事故との関係についての考察は、共同学習が向かおうとする、「奈良のシカ」と人間との共生に迫ることで、必然的に起こり得た、CDさんにとって不可欠な学習なのである。

また、Mくんが、冬休みに聞き取りをするのも、習得した様々な学習の方法の一つを本当に重要な場面で活かし、それを1月17日の考察をもとにした、1月21日の聞き取りという一人学習として具現化し、その良さを確かめているのである。

以上のように考えると、CDさんはまだ考察の足りない部分に一人学習を生かそうと考察し、Mくんは、一人学習で習得した学習の方法を共同学習に役立てるために生かしているのであり、少なくとも上記2人においては、自らの一人学習を共同学習との関係で見直し、自らの一人学習を共同学習との関係において発展させることで共同学習に役立てようとしているのである。

冬休みの一人学習は、子どもの学習の来歴を反映しつつ、共同学習で明らかにしようとする本質的ことがら-共生-によって、自らの学習の来歴が子どもによって相対化され、見直されるということが起こっており、その意味で、一人学習がいまだもっている、独善的な性質をそぎ落とすことで、一人の学習を一人学習に転換していることがはっきりと了解されるのである。

3. 結論

以上、子ども達の事実を手がかりに、子ども達がどのようにして、一人の学習を一人学習に転換し、それを共同学習に位置づけるのか、そのように位置づけられることで共同学習はどのように深化し、またそのことを通して一人学習もまたどのような深まりと広がりを見せるのかについて考察してきた。

一人の学習が一人学習に転換されたのは、冬休みの一人学習であった。冬休みの一人学習は、正確に目標を定めて聞き取りをし、共生の具体的方法を模

索して、子どもである自分にもできる事を考えようとしているのである。これはまぎれもなく、共同学習に向けての、仲間を意識した一人学習である。

またその一人学習は、ここではわずかに2名の子どもについて検討したに過ぎないけれども、子どもの学習の来歴に沿った方法のもとで、共同学習に向けた一人学習への転換が行われるのではないかということが導かれた。この点は、当然といえば当然のことである。なぜなら、子ども達は、助け合い協力しなければ明らかにならないことがらについては、最も自分が出ると思われる、来歴に沿った方法でそれを行い、またそのことで少しでも友達に貢献しようとし、そのことによって学習の喜びを得ようとするだろうと予想されるからである。

したがって、子どもが一人の学習を一人学習に転換するのは、共同学習を意識し、そこにおいて最も貢献が可能で、自らも学習の喜びを感じ得るところにおいてであるということが了解されるのである。そのことによって共同学習は共同学習として成立可能となるのであるが、すでに見たように、2月9日、10日の二日間をかけて、9日の第1分節から第4分節を、10日の第5分節としての学習につなげ、全体として共同学習にしていくような、努力がそこには見出されるのである。

結果的に、この学習は、3月16日まで、子ども達的意思によって延長されて終了するのであるが、そこで得られた結論は、Fくんの日記に代表されるような、あまりにも単純な、「自分は、動いて、伝えて行きます」なのである。だがしかし、これは正しいのである。それはなぜかといえば、分かるだけでは不十分なものであり、分かったら「動いて」すなわち実践して、「伝えて」すなわち広めていくことは、過去に生きた人々も同様にやってきたことであり、そのことによって現在の歴史や文化が存続しているからである。

おわりに

曹洞宗の宗祖・道元は「仏道をならふというは、自己をならふなり。自己をならふというは、自己をわするなり。自己をわするといふは、万法に証せられるなり。万法に証せられるといふは、自己の身心および他己の身心をして脱落せしむるなり」と述べているが、まさに子ども達のしごと学習は、学習が外にあるように見えて、それが内にあること

を知る、過程の一つであったように思えるのである。

「奈良のシカ」について調べる事は、自分以外のもの、「奈良のシカ」やそれに関する、世の中に存在する事実を調べることなのであるが、それは次第に、「奈良のシカ」に見る自己、つまり「奈良のシカ」を見ている自己の在り方や、「奈良のシカ」と同じ生き物としての自己に気づく過程に連なっていったのである。そして、はっきりとは子どもに自覚されてはいないが、同じ生き物として当然のように一緒に生きている、つまり共生するための方途をさぐる学習に行き着き、しごとの学習の最終局面を迎えたのである。

それは、万法に証せられたシカと、同じく万法に証せられた自己の在り方を、自己もシカも区別なく考え覚ることなのであった。

だが、道元はこのあと、次のようにも続けるのである。「悟迹の休歇なるあり、休歇なる悟迹を長々出ならしむ」。このくだりは、悟った後の修行を続けることで、悟りのくさみをすっかり消して、そうして本来の自己に帰るまで修行を永く続けなければならないという意であるが、子ども達は、その入り口に立ったのである。そして、くさみを消す修行というのは、ひたすら行うということであり、分かったように振舞うことなく、本当に分かっていたいわば真理体となって、ひたすら実践し続けることが、子ども達によって決意され、それを自らに課したのである。まさにそれは、Fくんの言うように、「大切なのは、2つだと思います。『自分から動く（伝える）』『身のまわりの人に広めてもらう、分かってもらう』です」なのである。分かってもそれではだめであり、行によってそれは本当に分かるということになるのであって、それを続けるところにしか正しさはないということなのである。それは、まさしく真理に到達した存在、すなわち真理体としての実践なのである。

3月の子ども達は、3月16日の時点で、ここまで到達しているものであり、それは、小学校3年生の学習もまた、そこまで行くことの証左であり、加えてそこまで行かなければ、学習とは言えないであろうことの示唆なのである。

頭が下がる思いで、3年月組の子ども達、全員に感謝をします。3年間、みなさんの学習を見せていただいて、たくさんの方が分かりました。私はそのことによって、あまりにも、自分が分かっていな

かったことが分かりました。みなさんの実践と同じように、私も分かったら動いて、伝えていきたいと思います。

注

- 1 拙稿, 問題解決学習から「しみじみとする授業」へ, 考える子ども, no. 384, 2018-03。
- 2 渡辺伸一「『奈良のシカ』による農業被害対策の理念と現実：奈良公園周辺農家へのアンケート調査をふまえて」(『奈良教育大学附属自然環境教育センター紀要』(8), 2007-03)。
- 3 昭和58年3月25日・奈良地方裁判所・民事第2部・判決・昭和54年(ワ)96号より。
- 4 奈良の鹿愛護会「国の天然記念物「奈良のシカ」頭数表」(平成29(2017)年7月16日現在, 鹿

愛護会HP資料) 参照。

- 5 注3に同じ。
- 6 「奈良のシカ」については、以下の文献も参照した。前迫ゆり「春日山原始林と草食保護獣ニホンジカの共存を探る」(『植生学会誌』19(1), 2002)。松村みちる・和田恵次・前迫ゆり「行動観察からみたニホンジカの樹皮剥ぎの特徴」(『野生生物保護』9(1), 2004。前迫ゆり「奈良公園におけるニホンジカの樹皮剥ぎ」(『植生学会誌』23(1), 2006)。渡辺伸一「観光地における動物との接触事故への対応：『奈良のシカ』の事例」(『奈良教育大学紀要 人文・社会科学』63(1), 2014-11)。

(表A) 注：▲は、これをはさむ前後が、実際の日記やノートではでひとつづきではないことを意味する。

A (聞)	8月27日	鹿寄せ。聞き取り・シカはおぼれるのではないか(泳ぎが上手い)
C (聞)	7月21日	シカの被害を聞きに奈良市茗荷町に行く。植える前の苗をシカが食べた。シカをたおすと5,000円もらえる。かわいいけど仕方がない。
D (聞)	8月30日	鹿苑に行く。保護区は市や県から教えてもらうだけ。だから愛護会だけでは情報が不十分だと思う。
F (聞)	8月23日	シカの捕獲についての実事確認。奈良のシカは春日大社の「神鹿」として天然記念物・観光客の餌づけ・奈良公園に1200匹生息。
(聞)	8月24日	シカについての新事実。観光客や地元の人がスナック菓子・果物・野菜・パンを餌づけたのを53件確認。奈良公園東側集落でシカによる被害が増えたという回答が多かった。「シカが、野菜の味をおぼえて農作物に被害が出ているんじゃないか」。捕獲は7月31日午後開始、その理由は頭数管理。捕獲方法は、公園東側の田原地区・東里地区で箱ワナなどにより120頭を捕獲する予定。県は、シカせんべい以外は与えないことをもりこんだ条例の検討を進めている。
(聞)	8月30日	シカについてインタビュー。妹の幼稚園の友達。高畑町に住んでいる人。シカは家の近くにきますか(家までは来ない・早朝5時くらいに市立奈良病院の近くをたくさんシカが走っているのを見る)。奈良教育大学の学生に聞く。大学の中にシカは来ますか(いる。家族で棲みついているシカがいる。追い出しても戻ってくると聞いている。人慣れをしている)
G (聞)	7月17日	鹿寄せを見に行く。石川さんに聞き取り・シカを観光客に知ってもらいたい(観光客思いだと思った)
(他)	8月25日	シカのポスター。シカらしい茶色を出すために新聞で調べた。
I (他)	8月7日	シカせんべい工場の見学。奈良公園に行く。外国人が食べていたお菓子をシカに餌づけ。別の外国人が葉っぱを食べさせようとしていた。
(聞)	8月8日	鹿愛護会に行く。奈良公園に行く。シカせんべいをあげ終わって、右肩をシカに押され、お父さんは服を噛まれた。
(聞)	8月15日	鹿愛護会で聞き取り。ノートを購入して一部のお金を寄付。
J (聞)	8月13日	春日大社宮司にシカについて聞き取り。奈良のシカは茨城県から来たかと社伝にあるが(言い伝えとして残っている)・シカは春日大社に何か被害を与えていないか(何も悪ことはしていない。農作物は参道にはないから被害は少ない)
(聞)	8月14日	奈良公園室に行って聞き取り。奈良のシカはどこから来たのか(茨城から来たという伝説がある)。シカせんべいの寄付以外の役割は(シカと触れ合うためのツール)。シカがいて得する人と損する人はどちらが多いか(嬉しいと思う人が多い)。シカは奈良公園から出ているか(メスは出していない)。奈良公園でシカの被害はあるか(公園内でシカがよく死ぬ)。捕獲では何頭がつかまったか(今は0頭。ワナの中にぬかを入れている)。

- (聞) 8月27日 シカと友達になろう(イベント)に行く。春日山原生林では、カシ・シイの小さな木はシカが食べるので増えない。
- K (他) 8月24日 シカのポスターを描く。「奈良のシカを大切に」と書くつもり。
- (聞) 8月28日 シカの被害について聞き取り。お米を買っている農家さん。シカ用の電気の流れるしかけの細い電線があった(それだけシカの被害があるんだ)。畑を荒らすのは嫌だと言っていた。あずき畑の豆だけが食べられていた。シカは攻撃されにくい畑の真ん中で食べる。シカはあまり悪くないと思っていたが、農家さんの気持ちになるとかわいそうだが、シカを鹿苑に保護した方が良かった。
- L (他) 7月17日 鹿寄せ。外国人が何も分かっていない気がした。
- M (考) 8月13日 しごとの独自学習。西表島のイリオモテヤマネコのための活動と奈良のシカの保護は似ているのではないかと。西表島の速度制限は40キロ・奈良公園は60キロで走っている・西表島の人の気持ち(イリオモテヤマネコを巻き込んだ交通時がないことを喜ぶ)を見習いたい
- (聞) 8月19日 鹿苑の人に聞き取り。奈良公園のシカは野生?(野生)・人づけとは?(神鹿として今まで人と生活してくるうちに人に慣れてきた)
- P (聞) 8月1日 奈良公園事務所を見つける。仕事を予想する。
- Q (聞) 8月28日 Kくんと農家の竹内さんに聞き取り。山の中で作物を作っていて、猿・シカ・アライグマ・カラスの食害にあっている。柵や障害物を置いている。竹内さんも必死に作物を育てているんだ。
- R (他) 7月22日 奈良市黒髪山キャンプ場。ナイトハイク。シカが出てきそうなところがある・畑にシカよけの電気柵。
- S (他) 8月3日 鹿愛護会のポスターコンクールのポスターを描く。「ゴミを捨てないで」と書く。
- (他) 8月4日 鹿愛護会のポスターの書き直し。
- (他) 8月6日 鹿愛護会おポスター完成。
- (考) 8月30日 シカの事実。「奈良市民だより」のシカの交通事故多発マップ。
- T (他) 7月23日 鹿寄せ。ホルンで来たシカは小さいシカや雌シカだった。
- W (考) 7月14日 CDさんが奈良公園のフンコロガシのことを発表することがわかり奈良のシカの本を進める。日本にいる150種類のフン虫のうち奈良公園には50種類がいる。奈良公園はシカ・芝・フン虫の共生なんだ。
- (考) 7月22日 夏休みの独自学習でしたいこと。①鹿愛護会に聞き取り、②須山町の農家にシカをどう思っているかを聞き取り。
- X (他) 8月8日 宮島のシカ。エサやりが禁止されている。
- (聞) 8月10日 宮島のシカ。昔はシカせんべいをあげていた。シカが畑を荒らすようになってシカを山に返すことになった。シカを奈良から連れて行った。
- 8月11日 鹿畑町のササノオ神社に行く。春日大社にシカを献上した。
- (聞) 8月12日 若草山の登山口でシカを観察し聞き取り。夜になるとシカは群れで山に帰る。毎日来るのでベットみたいに思っている。シカが畑を荒らさない方法はあるのかな。
- (考) 8月17日 シカの捕獲のニュース。BBCでも取り上げられた。畑を荒らさない方法はないのかな。
- (考) 8月24日 シカが食べてはいけないものを食べてしまうのはかわいそう。シカは匂いだけで食べてしまう。ゴミを食べて死んでしまうシカもいる。それをポスターにまとめたい。
- (聞) 8月25日 奈良公園管理係の藤岡さんに聞き取り。天然記念物なのにシカをつかまえて殺していいのか(畑を荒らしてしまったので、国が許可した)。OPさんと一緒に。
- I (考) 8月7日 シカのポスター。「シカは私たちのお友だち」。シカがもっともっと人との関わりが多くなったらいい。
- (考) 8月13日 シカにやさしく(人が)してシカが安全に幸せにくらせるような良い環境にしたい。これから調べたいことは、シカは何のためにあるのか。
- Z (聞) 7月15日 鹿寄せ。聞き取り項目を考える(なぜナチュラルホルン・なぜ春と秋はしないのか・なぜどんぐりをあげる・なぜ行う)
- (他) 7月16日 鹿寄せに行く。冬の方が鹿寄せで来るシカが多い。
- (聞) 7月17日 鹿苑に行く。本物のシカの骨を見せてもらう。
- (考) 7月25日 シカのポスターを下書き(構想)。伝えたいことは「シカは大切」・外国人にも伝えるために外国語を使う・願いを込めながら書く。
- (他) 7月29日 奈良県立図書館。宮島のシカについて調べる。宮島でも農家がシカに困っている。宮島ではシカせんべいが売られていない。
- (考) 7月31日 自由研究について考える。宮島のシカと奈良のシカを比べて、シカと人間が仲良くなるためには?を考えたい。なぜ宮島ではシカせんべいが売られていないのか。シカせんべいは奈良だけしか売ったらいけないのか。

- (聞) 8月1日 大和郡山イオン。シカの角のストラップ作り。聞き取り・今日のイベントの収入は？(鹿苑のエサや薬代)・ポスターはどこかで貼られているか(市役所くらいでしか貼られていない)・ストラップ作りは何年前から(10年ぐらい前)・何のために(いろいろな人にシカのことを知ってもらうため)
- (他) 8月3日 シカのポスターの下書き。
- (他) 8月4日 ポスター完成。英語・中国語・日本語を入れている。
- (考) 8月16日 朝日新聞記事データベースで宮島のシカを調べる。子どもが噛まれるトラブルが発生したため、シカの餌づけを禁止し、シカせんべいの販売も中止した。トラブルを起こしたシカだけを山に返せば良いのでは。
- (考) 8月16日 シカ捕獲。3月末までに最大で120頭が捕獲予定。一生オリの中なのか・山に逃がすのか・被害が少なくなったら解放するのか。
- (考) 8月22日 明日と明後日に宮島に行く予定。質問を考える。①農家の被害はたくさんあるのか、②鹿愛護会みたいなのところがあるのか、③シカせんべいはなぜ売ってないのか、④何頭ぐらいいるのか。⑤シカについてどう思う(農家・観光客)。⑥死んでしまったシカや骨折したシカはどうなるのか。誰かが何かしてくれるのか。自由研究にまともめたい。
- (聞) 8月25日 鹿愛護会に行く。捕獲についてどう思うか(仕方がない)。
- (聞) 8月23日 宮島と広島市に旅行。1日目:宮島。シカは島内に500頭ぐらい。人がいる場所には24日 200頭。シカがゴミを食べないようにゴミを拾っていた。昔愛護会で働いていたおじさんに話を聞く(宮島は農家がない。木を食べられる被害が多い)。2日目:広島市内。
- AB (聞) 7月17日 鹿寄せ。「今は、みんなに鹿のことを知ってもらうためにやっています」。
- (聞) 7月18日 鹿苑に行く。シカの年齢がわかる方法を教えてもらう。「(シカを)ずっと見ているから、だいたい何歳かわかります」
- (考) 7月19日 鹿苑で聴いた事を整理。シカの事を守ろうとしている・みんなにシカのことを知ってもらいたい・シカのことを大切に思っている・奈良のシカのことを知らないから知ってほしい・何年経っても今の奈良公園みたいにシカが自然にいる状態が続いてほしい。
- (聞) 8月16日 奈良公園室に電話で聞き取り。シカの捕獲について(今も天然記念物として大事にしているが、農作物を食べられてしまったらもったいないので、捕獲することも大切)。奈良公園室は真ん中の立場。
- (考) 8月19日 シカが捕獲されたニュース。農家も困っているから捕獲した方がいい。
- (聞) 8月21日 田原鳥獣対策クラブを見つける。聞き取り。「シカは敵だから、(捕獲は)嬉しいですが、でも、120頭だと少ないと思います」「農家にとって死活問題だから、シカは敵です」「シカが車にぶつかってへこみました」「まだ(シカは)1頭しか捕まけていないので、これから、もっと捕獲されたとしたらたくさんの方が分かるかもしれません。分かったら困っていることが解決するかもしれないので、捕獲するのも大事だと思います」捕獲するのも大事だと思います。帰りに、奈良公園のシカサポーターズクラブの人に聞き取り。土日は愛護会の人々が忙しいのでお手伝いをする。シカの捕獲について聞き取り。「コメントできないなあ。むずかしいから」「シカはかわいいだけじゃない」「シカを捕獲していろんなことが分かるだろう」
- (聞) 8月24日 田原山里市場で聞き取り。「シカが捕獲されることになって嬉しい」。20年前はシカがいなかったがだんだん増えてきた。家の裏の畑のサツマイモは全部食べられてしまった。イノシシの被害もある。「まだ1頭しか捕まけてないし、120頭つかまえても効果はない」「動物を殺すのはつらいですが、生きていくには仕方がない」。大和高田市松塚のうえだ菜っ葉工房に行く。大和野菜のことをどう思いますか(なくらいでほしい)・大和まなは手間がかかりますか(小松菜よりも手間がかかって大変)・ほかの土地で育てると大和まなはできないのですか(できますが、味は土や温度によって変わってしまう)・大和野菜を広めたいですか(京野菜に負けないよう頑張りたい)
- CD (考) 7月14日 夏休みをよりよく過ごすために。はじめの方は習い事や宿題。中は自由研究とラボ。終わりは、遊び。
- (考) 7月15日 奈良公園に行った(6月10日と同じ場所)。前の雄シカのなわばりのところと違っていた。7月11日は遅れて行ったので22頭、今回は31頭。15時13分から寝始めて5分でやっと立ち上がりはじめた。主食のシバを食べ始めた。おやつはシカせんべいは食べていない。5分ぐらいで移動。15時56分ぐらいに一部のシカが次のシバのある場所に移動。16時にシバを食べていた。シカの体内に時計があるんじゃないかというほどに正確。私が追いかけたシカは興福寺の記念碑の裏。シカが正確に動くのは何かあるのかな?
- (他) 7月17日 シカ愛護ポスターを描いた。キャッチフレーズは「そっとみまもってね」

(他)	8月6日	シカ寄せ。ホルンの音にシカが反応して感動した。
(考)	8月7日	シカはホルンの音色につられたんだな。集まるしかは雌シカが多かった。何か理由があるのか。
EF (聞)	7月29日	ハガキ新聞作り。「今の時期のツノは、おうどいるでやわらかい」と教えてもらって確かめる。。
(他)	8月9日	ゴルフ場でシカを見つける。雌シカの出産。。
(他)	8月17日	奈良公園のシカの捕獲のニュース。農作物を荒らすので許可された。。
(考)	8月18日	120頭もやるなんてかわいそう。野菜を食べるのは、観光客などが野菜をあげて味を覚えたからで、人間のせい。。
(他)	8月11日	朝から奈良公園に行く。とび火野でホルンをふいてくれる。集まってきたシカは100頭以上。
GH (聞)	8月25日	奈良市須山町で聞き取り。ニュースに出ていた小垣内さんに聞き取る。農作物や家の花までシカに食べられた。4人に聞き取りを実施。
IJ (聞)	7月23日	奈良のイベントに参加。シカが嫌いな草。ルリセンチコガネがシカの糞を掃除する。実際にコガネムシを探して観察。
(聞)	7月25日	シカの食べない草を教えてください。
(他)	7月29日	奈良公園のイベントでハガキ新聞を作る。シカの事故新聞を作る。
(他)	7月30日	春日山原始林観察会に参加。メスの群れに小鹿を発見する。母シカが警戒していた。赤ちゃんを必死に守る気持ちが伝わってきた。
(他)	8月14日	自分が作ったハガキ新聞が届く(シカの事故新聞でシカの死亡理由が書いてある)
(他)	8月31日	観察会の振り返り。シカの嫌いな草があった。シカの嫌いな理由を調べたい。
OP (聞)	8月23日	奈良県庁奈良公園室で聞き取りに向けて何を聞くかを考える。シカの苦情(どういう苦情があるか・苦情への対応)
(聞)	8月25日	奈良県庁奈良公園室の藤岡三貴子さんに聞き取り。農家からの苦情が多い(シカが畑を荒らす)。農家に柵を高くしてもらっている。シカのことをもっと知ってもらおう活動をしている。いろいろな言語のチラシを作って駅などに置いている。人間とシカの両立ができそうでできないんだな。
QR (他)	7月29日	奈良公園。シカせんべいをあげていたら、手を噛まれそうになり、足をけられ、お腹を噛まれる。

(表B)

B (聞)	1月2日	愛護会に聞き取り。ここで何をしているのか・正月の予定⑨a・正月は事故が多いのか⑦
F (考)	12月26日	まとめて考えること。
F (考)	1月2日	シカとの共生について考える②
F (考)	1月4日	100パーセント共生はむずかしい②
J (聞)	1月4日	県庁奈良公園室、現在のシカの捕獲数・捕獲予定数⑤。県庁道路環境課、鹿ゾーンの効果・標識の案内の効果⑥。鹿愛護会、困っていること。
M (考)	12月19日	振り返り。地道な努力から始める・シカの群れを追って通り道をつきとめる。⑦
M (聞)	1月8日	愛護会に聞き取り。子どもにできることとは①・共存とは何か②。
Q (聞)	1月4日	鹿愛護会の事務局長に聞き取り。一年間の予算・補助券(春日大社・奈良市)・シカのエサ代・必要経費・スタッフの給料。③
Q (聞)	1月5日	鹿愛護会に聞き取り。私たちにできること①・観光客にどう訴えるか・お金は足りているか③・交通事故はなくせるか⑦。
R (他)	12月26日	赤信号で止まっているシカ⑧
S (考)	1月7日	独自学習。シカのアプリを使ってわかったこと・シカの交通時が多い交差点。⑧
Z (考)	12月29日	シカ新聞を作る(シカについて・愛護会や守ってくれている方々・交通事故・被害と捕獲 ⑦・⑤)
Z (考)	1月6日	新聞記事(シカの獣医。吉岡さんの人生)⑧
AB (考)	12月26日	シカに興味を持ってもらうにはどうすれば良いかを考える。シカのクイズが載ったチラシ。
AB (聞)	1月6日	愛護会で聞き取り。私たちにできることとは①・アイデアチラシを制作すること(もうやっている)・修学旅行生のための事前学習⑨b
CD (考)	1月8日	自分が観察してきた事をもとに考える。シカの習性と交通事故。⑦
IJ (聞)	1月9日	鹿愛護会で聞き取り。自動車の速度制限・私たちにやってもらいたいこと①。
OP (聞)	1月5日	愛護会に聞き取り。シカを減らす方法④。

(表C) CDさんの日記・作文一覧 (左欄より, 日付・タイトル・内容)

- 4月26日 ふかくふかく 地図のことを友だちのはっぴょうをきいてふかく考えてみました。▲QくんとMくんのはっぴょうでは, P7ページをさんこうにしています。わたしの地図とのちがいは, 道があるとしゃしんをはってない, えをかいていない, 地図きごうをかいているの4つです。▲つめつめなのは 地図きごうを書いたらいいと思います。▲LくんとOくんのはっぴょうは, ちみをかいていて, めだつものをしっかりかいていました。私は, 方がくをちゃんとかいた方がいいと思いました。▲考えて自分とちがうところ, 自分のち図にもいかせるところがあったので, 考えてみることは, たいせつだと思いました。
- 5月7日 今日, お兄ちゃんとかいものをしてから, 日本さいしょにせいかならずをつくった, いのうただたかがしていたおなじはばであるいはかるやりかたでイソカワから家までをはかってみました。▲そこをいのうただたかは, どうしていたのかなと思っていのうただたかをしらべてみると, てつぐざりと, まなわをつかったりきかいをいろいろつかっていました。▲地ずにはたくさんのなぞがありますでもたからさがしのよう, そのなぞをつくたのしさがつたわってきました。
- 5月9日 いろんなところに「はたらく人」はいます。それをがく習することはたのしいことだと思いました。▲あともう一つしたことは, 市やく所から, ふなはしまで, きよりをはかったことです。(2500ぼだった) これからもきよりなどをしらべたいとき, じっさいにやったりいったりしたいと思いました。
- 5月25日 シカあいご活動の人たちの1日をしらべてからそれから, もんだいをといていきます。
- 5月27日 (鹿苑) 私は, ききたいことと, みんなのききたいことをインタビューしました。▲いっぱいしらべてみんなにつたえ話し合いのタネにしたいです。
- 6月2日 (鹿苑) よそうを立ててからインタビューです。
- 6月10日 (学習研究会) ほんとうかな? 私がいけんの中でもっともちゅうもくしたのは, さいごのほうのおちあいさんのいけんです。りゅうは, かみのつかいだからあいごかいがはじまったといっていました。人々ののおもいもあると思ったからです。▲そしたらなぜ38とうまでへったときに, 人々の力でふやせたかです。それはあいしている人たちのぼきんもあると思います。ありがたいものでもあるけれど, 思いもたいせつだと思っています。
- 6月11日 ほんとうかどうか きのう, 学習けんきゅうかいがおわってから, 奈良公園にいきました。▲調べた地図のように, どんぐりの木としばがほんとうに, たくさんあるのかを, 歩いてみました。たしかにどんぐりの木と, しばがたくさんありました。
- 6月12日 すごい! オスは, みんなでかたまわっていてねているシカもいたので, 3時ごろがお昼ねタイムなんだなと思いました。
- 7月11日 学びをふかめよう!! ふなはししょうてんがいにいくついでに, 奈良公園で, シカのかんさつをしました。▲はじめにオスのむれをみつけました。6月10日の3時5分より20分おくれてみると, 21とうで, 前より10とう少なかったです。
- 7月15日 大発見ノート (対象別に分類してある, ほかの分類は「畑」) ちょうど3時8分に集まりおわっていました。(6月10日と同じところ。7月11日…) ▲シカのこうどうパターン▲県ちょう前ふきんで, 3とうが集って昼ね(いつも)→おきてすぐ, 5分くらいしばをたべる。しかせんべいにはみむきもしない→5とうぐらいのむれで, 次のばしょに, いどう→いくつかの5とうのむれはこうふく寺のしばをたべる。昼ねごは, 2回にわけて, シバをたべる。→しばをたべてから自分のすみかにかえていった。▲ですが, まえのオスシカのなわばりのところとちがっていました。かんさつしてみると, 前のところは, 日が, てっていて, 今のところは, 日かげでした。7月11日は, 20分おくれていったので, 22とうでしたが, 今回は, 6月10日と同じで, 31とうでした。15寺13分からはじめ, 53分でやっと立ちあがりをはじめました。なので, 40分ぐらいねていました。その次に, しゅ食のシバをたべはじめて, なのであんまりおやつシカせんべいをたべていませんでした。5分ぐらいしかたべていないかったのでびっくりです。それからちよこつとシカせんべいをたべ, 56分ぐらいで, 一ぶのシカが次のシバがあるところにいました。ちょうど, 4時に, シバをたべていました。このことで, シカの体内にとけいがあるんじゃないかというほどせいかくで, びっくりしました。4分ぐらいたべてから, まんぞくしたシカから, 自分のすみかにかえていきます。▲シカには, とけいはいっているように, せいかくにうごいていました。なのでそこに, なにかあるのかな? と思いました。
- 8月6日 大発見ノート ①ホルンを5回ぐらいふいていた。②森のおくから, れつになってあつまった。③どんぐりのえさをあげていた④メスジカが多かった。※オスジカのほうが, けいかい心が強いのかなと思った。

- 9月3日 オスジカとメスジカがけっこういっしょにいたのでけっこうきになりました。このとき思ったことは、もうそろそろ、こうびのじきからかなと思いました。▲①シカよせのときにあげるどんぐりは、えづけじゃないのか。まい日シカは、3キロたべているそれにしては、ごく少ないからいい。②オスとメスがいっしょにいるのはなぜか。こうびのじきがもうすぐだから③3時のあつまりがないのはなぜ。こうびのじきもあるけど角きりようのシカほかくっからにげて、もっと東にっているかもしれない。④シカは、紙をたべては、いけないのに、なぜシカせんべいのかみは？それは、シカせんべいのいんさつインクが大ずインクだから。▲今日はたくさんのしゅうかくがありました。
- 9月9日 今日は、前、奈良公園について、ぎもんにおもったことをよそうしてみました。▲まず、私は、ろくえんのつの角きりようのシカをみにいくと、にんしんのシカよりくさかったので、それは、なぜかを、よそうしてみました。▲けっかは、私は、何どか、ぬまのようなところにはいつているのをみかけたり角を木にこすりつけていたのをみたので、オスにとってそれは、メスにもてるためにすることなのかなとよそうしました。▲あしたできたら、このことのじじつを、しらべに奈良公園に行きたいです。
- 9月10日 しらべてみよう！！ 今日、きのうのことをしらべるために、ろくえんに、じでん車でいきました。
- 9月11日 はっけん！！ 今日、ろくえんによりました。いくとちゅう、メスジカのむれがあったのでついでいきました。▲いくと、おち葉をたべはじめたので、かんさつすると、シカは、まだ、青いはっぱをたべて、いました。ひろってたべさせてもたべました。▲かたいパリパリのものは、たべていませんでした。▲青と、赤のを、てで、さしだすと、どっちも、たべてしまいました。
- 9月13日 今日は、はじめて、国語を、1時間しました。したのは、わたしことりとすずとです。▲私は、それをよんで、みんな、いろんなこせいがあって、どれもすばらしいということがよみとれました。▲私が両手をひろげてもお空はちっとも飛べないが飛べる小鳥は私のように地面を速くは走れない
- 9月18日 すっごい～～ 次に奈良公園にいきました。▲ろくえん すごいヌタうちをした後のように、角がどろまみれでした。いっしゅんもがいているのかと思ったけどヌタうちだったのによかったです。▲2回目のヌタうちもありました。こんどは、地めんどけじゃなく、川のようなところのよこのしめったつちを前あしで、ひっかいてつのに、どろをつけていました。みれてよかったです。▲その次に、お母さんじかが3とうの子じかにちちをのまれているところをみて、においがおなじなのかなと思いました（おちちは、白かった）
- 9月22日 これをつなげて 今日、4時間目にシカについて発表しました。▲私は、発表しているときに、せつめいをつまずいたりしてしまったけれど、自分のベストをつくせたとと思います。おたずねのときどんなおたずねがでてくるかたのしみで、こたえられないものは、よそうでいて、じつにたのしかったです。▲やっぱり、シカのことなど発表することを、すこしでも多くしていると、たのしくなるんだなと思います。▲次しらべようと思うのが、しつもんでた、なんでとけいのように、せいかくにごうけるのということです。それは、シカにきなくちゃといたので、シカにいちばんちかいシカのことをよく知っている人に、きいてみたいです。
- 9月27日 はっぱり 前もいったように、オスとメスのちがいだと思いますが、いまは、そのじじつは、あいご会にきかないとわかりません。▲私はしりょうでかいていたように、シカせんべいは、おやつなので
- 10月1日 ふ～ん 今日、奈良公園にシカを見にいきました。▲私ははじめて、ろくえんにいきました。ちょっとちかよるともすごいあくしゅうがただよっていました。いってみるとすごいヌタうちをしていて、角に、どろがすぐついていました。それに、ふくろ角がやぶれたので、けんかしてきずだらけでした。前よりもあらあらしかったです。
- 10月7日 んもんがあつた！！ 今日、しごとのことについて考えました。Sさんは、1位、2位、3位のところには、しかせんべいやさんが、あるといっていました。▲このことについて私は、シカせんべいやさんは、奈良公園のえんじよで、ちがうかいしゃがしています。なので、あいご会は、なぜ、奈良公園のシカは、しんでっているのに、ばしよをかえさせないかぎもんです。▲なんでかな、と思うと、シカをまもるというのはどうなのかなと思います。
- 10月8日 シカっていいな 今日、シカの角きりにいきました。シカの角きりでは、なん人ものせこたちが、シカをおいつめてっていました。角きりでも、すぐに、つかまるわけじゃないんだと思います。▲オスジカは、いまあらあらしいのですが、なぜ、れいぎ正しいやつにしたのか、を考えると、時間もあるので、早くあばれてかられいせいになるやつだからだな～と思いました。すごいはっけんがあったので次にかいたいです。

- 10月21日 自ぜんとシカー春日山原始林を見て
今日は、春日山原始林を歩こうにさんかしました。▲今回は、春日山原始林を未来につなぐ会のすぎ山さんにおしえてもらいました。この原始林にのぼってかんさつしたことは、たくさんあります。▲まず、生き物では、雨の日だったので、ヘビやカエル、ヒル、ミミズなどの生き物が、でやすかったです。見つけたのが、まずは、ママシです。子どもでした。なぜか、かわいかったです。▲次に、シカを見ました。オスジカで、角きりをまぬがれたシカでした。ほとんどやせいで、すぐに森のおくに、にげてしまいました。▲次に、カエルにいました。このカエルは、すごく、うしろ足▲生き物は、たくさんせいそくしていることがわかりました。でも、植物と、うまく共ぞんできていのか、大じだなどと思いました。▲植物では、見つけたのが、ナギで、シカがたべないことから、ほんとうは、ぜつめつきぐしゅなのに、多くなっているらしいです。▲このような植物では、シカが、たべるたべないで、数のへんかがおきます。リスも、シイのどんぐりをたべるので、シカが多すぎると、リスがいなくなると思います。▲次に、シカのひがいです。ひがいは、多くて、森がなくなるということにむいていました。▲一つ目は、植物のところ、いったように、たべる植物は、少なく、たべない植物は多くなることで、そこにすんでいる、生き物（せいたい）が、いなくなるということがあります。▲私は、このことについては、森が、くずれるのは、だめなので、シカを、奈良公園にうつすほうがいいと思いました。▲二つ目は、シカが、シバをたべるので、下の草などが、なくて、水がとめられず、そのまま、川にながれていってしまっ、そのときに、土も、いっしょにながれて、いってしまっ、そこが、なくなっていくので、くずれたりして、それが何年もつづけば、森がなくなったりしてしまうことです。▲三つ目は、シカが、木を角とかで、たおしてしまっ、それが、何回もつづくとも森がなくなってしまうからです。なので、ネットをしている木がありますが、ぜんぶに、ネットは、むりなので考えているそうです。▲四つ目は、シカに、かんけいないのですが、私が、ずっと気になっている、ナラがれびょうのひがいで、なぜなるかわかりました。カシノナガキクイムシのオスが先に木の中にはいって、メスをよび、メスがもっているきんがかくごうすることによって、木がかれてしまうようです。▲すぎ山さんにインタビューで▲Qすぎ山さんは、シカのことをどう思いますか A あいご会は、シカの数は、へっていたと言っているけど、ほくは、ちょっと、シカの数は多いんじゃないかなと思っていて、だから、えさがたりなくて、たべられなかったシカが、原始林に、やってきていると思う。といていました。でも、すぎ山さんは、ほかくして、しょぶんするのは、かわいそうで、いやだといっていました。▲私も、しょぶんするのは、いやなので、シカは、えさがいからなので、えさを多くするためどんぐりの木をうえたりしたらいいと思います。▲そして、そのすんじャっているシカは、ふえないように、オスジカだけ、つかまえると、ハーレムなので、こうびを、しやずに????、ふねないかもしれません。▲今までは、あいご会のお話をたくさんきいていたのですが、原始林のげんじょうをすることで、つなぐ会の人たちのお話から、シカにたいするいろんないけんがあつて、より、学習がふかまりました。原始林もシカもまもるため、まだまだ、みんな意見をおかめていきたいです。
- 10月30日 ちなみに、去年、小やく丸さんにもらったみずなのしゅうかくしたたねをのこしていたので、10月26日にうえて、今日の10月30日に、めができました!!これから、みずなもかんさつしていきたいです。今回あぶらなをうえたので、できるだけ、かんさつしにいきたいです。
- 10月29日 もう一ど 今日、春日山原始林の手前まで、歩きました。今回は、台風のせいで、おくには、はいれませんでした。が、ほうたい、ネット、が生き物を見つけました。▲こんどは、ちゃんとさわったり、かんさつしたりしやしんとったりもう一ど、しっかりかんさつしました。しりょうが、ととのったし、よかったです。▲次は、はれた日について、しりょうをもつとふやしたいです。
- 11月2日 ナギとシカ 今日、一時間目のしごとの学習で、きのうの私の発表のことについてはなしあいました。▲そのときに、みんな、原始林は、なくなってもいい。という人がたくさんいました。▲私は、原始林が、てんねんきねんぶつなので、くずすことは、だめです。でも、シカは、そこで、つうじょうのようにすごしているだけです。そのつうじょうがひがいにもらたらしています。▲なので、シカのつうじょうは、かえれないので、やっぱり、そこから、ちょっとやさしく、ふやさないようにしてみたほうが、いいと思います。▲おれいで杉山さんにかいたお手紙のおへんじで、ぜつめつきぐしゅでは、ありませんでした。さらに、お手紙で、春日大社のナギだけの林はめずらしいので、てんねんきねんぶつになっています。▲なので、ナギについて調べました。▲シカがたべないナギが春日山原始林のシヤカシをせんりょうしていくことも、シカによるひがいだと思いました。

- 1月28日 今日、奈良公園で、インタビューとかんさつをしました。▲私は、リーフレットやスマ保のアプリとステッカーのこうこくをふまえた交通じこのポスターをしかよせでくばるといふけんをもってそれは、どうかとききました。くわしくおしえてくれたので、ぎもんが次次にでそうです。▲かんさつでは、代表てきに道路のところにすジカがいてそこをとうろうとしていたバスは、うまくよこを通りましたが、これがよるだとひかれていたかなとれました。
- 1月28日 (かんさつ・インタビュー) インタビュー(あいご会の方) ▲①Q 夏のしかよせにいったことがあるのですが夏と冬のちがいはありますか? A ありません。ですがはじめは、冬だけだったけど、いらいされた奈良市かん光きょう会が人気がよくったから(かん光客の少ない)夏もしてといらいがきたからしている。▲②Q しかよせの時のほ金したらもらえシカのおり紙はだれが作っているんですか? A シカサポータークラブの人がきょうりよくで、おつてとどけてくれる▲③Qリーフレットが作られたのですがしかよせのときにシカのおり紙といっしょにリーフレットをくばるのは、どうですか? A シカよせの時にリーフレットだけでくばっているけどシカのおり紙は、②でいったようにシカサポーターズクラブが作ってくれるから数は、決定できない。▲④Qスマ保のアプリとステッカーのせんでんをふくんだシカの交通じこ注意のポスターを作ってシカのおり紙とリーフレットといっしょに冬のしかよせでくばるのは、どうですか? A シカのおり紙は、③といっしょで、シカサポーターズクラブが作ってくれるから数は、決定できない。スマ保のアプリは、ほくたち(あいご会)が作ったのではなくいらいされたからしているだけだからくわしく(ふかく)はせつめいできない。
- 2月5日 まとめ 今日、校外学習のことをまとめてみました。▲私がせつめいで一番、あいご会がいったことは、「一人でもシカにきょうみをもって、たくさんの人につたえていく」ということです。私は、それが私たちにできているか、かんがえると、発表からいけんの出し合いがあてはまっています。先生もおっしゃっていたように、まず自分たちをみつめて、りかいしたうえで、ほかの人たちに伝えていきたいです。▲シカとのきょうぞん、きょうせいも、あいご会の方々は、むずかしいとおっしゃっていたけれど、考えつづけていかなければいけないと思います。私は、これからもシカの事をするこつで、考えやすくなるからみんなにじじつを伝えていきたいです。(きかいがあれば)
- 2月6日 学級だより 今日、学級だよりを読んで思ったことを一部書きます。▲分かっているかもしれないけど、あいご会がいなくなると、今より交通事故と、かん光客のめいわくな行動がふえて奈良公園のシカが死んでしまうし、かん光客にも、角屋とっしんなどで、けがをしやすくなると思います。▲やっばりシカときょう生するには、あいご会のかつ動が重ようだと、より思います。
- 2月8日 授業前の独自学習ノート どんく自学習▲いままでのまとめ▲5,6の日記からまとめて「自分たちができているか」というのをまず第一に考えたらいいと思いました。そして共ぞんにちかづくには、あいご会がいて、人間は、シカにきょうみをもっていく「おたがいにわかり合う」というのが大切だと思いました。▲共ぞんするには、あいご会の活動とシカと人間がかりかいし合うのがポイント。▲今までの私の1年間の活動 ○1週間から2週間に1回は、奈良公園で、シカをかんさつした。▲①昼ね後の行動かんさつ、②角切りのためのほかく、③春原始林のシカによるひがいにシカとの共ぞんにきざいた。④ルリセンチコガネ。①②③④をもぞう紙にまとめて学級で発表。▲○あいご会のかかわり ①1ヶ月に一度は、ぜつたいに「ろくえん」に見学に行つてシカをかんさつ。→ほごされているシカを理かい。②シカについてインタビュー。もぞう紙と日記にまとめて、学級で発表。③学級で子じかを公開見学。※子じかの出さんが見れた。④こ人で「つ切り」見学 ※シカの本当のはやさがわかつた ※シカと人間の伝とうがわかつた▲⑤シカよせ(夏)にさんか(夏休み中)※ホルンのきれいな音色につられてくる。きたらごほうびのどんぐりがもらえる。▲⑥学級でろくえんの見学とお手伝いをした→一年を通じてシカの生体がやおたがいのひがいに、行事、あいご会やサポーターズクラブの活動がわかつた▲今回のテーマ「シカを知つてもらふとはどういふことだろう?」▲私は、きょうみをもつてもらふことだと思ひます。それは、シカのよいことなのか、悪いことなのかを知つてもらふ。シカに對するしつかりした知しきをつける、広める。たとえば ※秋は、シカが発じょうきなので、オスがメスを追いかけて、とびたしやすひ→事故が多い
- 2月8日 今日、2時間目にしごつで、5人が日記のことを発表してくれました。そのことは、私が2月5,6日の日記で言つていたこと共通点があるとと思ひました。▲私は、シカとの共生、共ぞんについてずつと考へてきました。そのためには、シカも人間もがまんをしているので、そこに注目してノートにまとめてたいです。そしてみんなにお伝えたいです。

- 2月9日 ふりかえり 私は、朝のくんが、かん光客は、きまりを守っていない人といってくれました。いい人は、いるとCくんたちもいっていましたがわるいことをしている人が多いとなっています。そのことは、わるい人をへらして、きょうみがない人は、みなくていいと思います。そのことまたあしたかんがえたいです。
- 2月9日 がまん 今日は、学習研究発表会でした。その中でがまんということばがでてきました。そのはまんをじっかんするために、駅の出たすぐの所のあん内所で、えい語と、日本語のパンフレット(チラシ)をもってかん光客きぶんで、さんぼしました。▲まず見つけたのは、オスのむれです。春になったので県ちょう前に26頭のむれがもどってきていました。(ひるね)▲次に、3回シカがチラシを食べているのをみつけました。その中の2回は、とれましたが、そのさいごの1回は、オスジカで、はなしてくれませんでした。▲そして、食べものをたべていたら、うしろから2回おそわれました。さいごに2回、人間が、タバコ、パンなどをあげていました。▲こんなことがたくさんおこって、がまんしているんだなと思いました。▲ゴミもおちていました。かんさつしにいったら、かならず、ちゅういして、食べ物を、おとさないようにして、ゴミもひろえるようにビニールぶくろを持さんしたいです。▲かん光客の気もちで、まわってみたいけれど、私は、一年間シカを追いかけて見ていたからチラシをたべているとたすけたくります。クラスメート(34人)では、げんかいがあるので、パンフレットにかくのは、いいと思います。▲シカよせば、あいご会も、かん光きょうでいらいされているから、あいご会も、かん光きょう会におねがいしたいいいと思います。今日もいろんなきづきがありました。
- 2月20日 もう1回まとめる 今日は、自分の意見をもう一回まとめてみました。▲私は、奈良公園のウォークマップにかいてあるしかまろくんの下にかいているお腹をこわすというのを、外国語のところに、そのことがかいていないのでかいたらいいと思います。▲あと今回もすこしと一だったと思うのでしるというのの話をしたいです。まとめてあらたな考えができたのでその考えをいってまたまとめていきたいです。
- 3月14日 外国人 今日は校外学習で、しごとの事を伝えました。私は、2人について、わかってもらえました。けっこうの人がシカは好きといっていて、わかったといっていました。そしてその人がこうしているかみて、みるとビニールを食べているシカのビニールをとっていました。思いがたわってよかったです。▲しごとのまともめは、おわかりましたが、このこうどうがつなげばうれいします。
- 3月15日 シカの事を知ってもらうということはどういうことなのか? 今日は、校外学習の前と後で考えがかわったので書きます。▲まず、前では「きょうみを持つ」という事だと考えていました。でも、今回の校外学習で、英語でいっしょうけんめい自分たちできめた事を伝えると一人の伝えた外国人かん光客がシカがビニールをたべそうになっているところで、ビニールをとってくれました。それを見て、「伝えたことを行動にいかす」という考えにかわりました。▲きょうぞんするには、「行動」が大切なキーワードだと私は考えました。
- 3月16日 奈良公園のシカふりかえり 私はやっぱり「行動」というキーワードが大切だとおもいました。そしてそのしかたは、佐とうくんのいっていた、自分から、ひろめていくということです。一人でもつたわると、きけんが1回なくなる。その1回だと思います。▲今の校外学習で、どれだけもえたか、そういうのも伝える(行動)だと思えます。▲次いったときには、はじめてしたことをつたえたいです。▲伝えるけどむしした人は、あきらずに、(空)とはちがって、たくさんかんばんをつくって、いずれきょうみをもてるようにしてほしいです。▲ですが今までかんがえてきた、ので、今のじょうたいでいいというのも書いてきます。▲でもそれは、さいあくのばあい、あいごかいが「共生」をできていないというのもむだになってしまいます。私のはじめてみたときは、共生ということではできていたってました。ですが、それは、おかしいというのでそのこともいいたいです。きびしくかんがえると、なにをやってもだめというかんじになって、しまいました。▲いろいろかんがえてみたので、大人になってもおぼえて、考えてもみたいです。
- 手紙 今までシカの事、交通じこの事そしてひがいのことをおしえてくださりありがとうございます。シカの事では、てんねんきねん物ということ、シカにゴミをあたえてはいけないことをしりそれを外国人かん光客に伝えられました。伝えるのはほんの数人で、ちょっとでもやくになれたうれいします。▲交通じこは前まで、ちょっとスピードをあげてはしていました。ですがそれが、シカにとってめいわくなことになっているのをしり、はずかしくなりました。▲このようなことを、してなければ、交通じこがおきていたかもしれないと思ってまことにありがとうございます。▲シカはこわいと、ひょうかですてていましたがそれもストレスになることをしたからだと思えます。▲このようなげんじょうがありシカと人間がともにいる「きょう生」というのに気がつきそのことはしらべさしていただきました。▲大人になってもおしえていただいたことは、わすれません。ほんとうにありがとうございます。

Mくんの日記・作文一覧 (左欄より, 日付・タイトル・内容)

- 4月13日 6時間 朝, 今日のをよいを見ると, 6時間目が社会になっていました。ほくは, はじめての社会が楽しみで「5時間目までしかないようなものやん」と思っていました。でも, じっさい6時間は, けっこう長くて「ふー」となったのです。でも, 社会じたいは, 楽しくて, 今日は, どくじ学習を, したのですが, どんどんすらすらすすみませ
- 4月16日 今日, 社会の学習を, いつきくんとやりました。さいしょに, 家のまわりのしらべるためいつきくんと二人で, たくさんのところにあるきに行きました。さいしょは, じゅんちょうで「このまますすもう」とテンションがあがっていました。でも, とちゅうで絵をかくかんかくがだんだんとなくなってきました, だから「えをたどっていけば, どこにいても, もどってこれる」と, そう思っていました。でも, だんだん絵がへんになっていき, たどっていたらもどれるやろうと思っていた, たよりにしていた絵が, よくわからなくなってきて, ついには, まいごになってしまいました。
- 4月17日 谷川さんはすごい ぼくは, 学校の国語の学習で, 先生がXさんの日記をよんで, すごいと, Xさんに, おっしゃっていました。なぜならXさんは, ドキンのしのさくしゃ谷川さんのことをしらべていたからです。それを, 聞いた, ぼくは, 谷川さんのことを, しらべたくなったので谷川さんのことを, しらべてみることにしました。
- 4月19日 国語 今年のためあてで, いけんをおおくいうときめたのですが, なかなかじゅんばんからだ, まだ, うまく手をあげられなくて, まよっています。
- 4月26日 社会 「これからぼくたちのはっぴょうをはじめます」そういうってのはじまったのは, Lくん, Oくんのはっぴょうです。ぼくと, いつきくんのはっぴょうの時とは, おおちがいで, 道と, 北, 南を書いていて, せつめいがすごく分かりやすかったです。でも, その後の, かんそうやおたずねでは, まだ, つけたしがありました。ぼくは, Oくん, Lくんのはっぴょうですごくまんぞくしていました。でも, まだ, つけたしができる人がすごいな～と思いました。
- 4月27日 はっぴょう 「よし, いいできや」社会の, 学習で, 家のまわりをしらべたときは, そう思っていました。でもそれは, ぼくたちが家のまわりをよく知っているからであり, 知らない人から, 見たら, あまり, 分からないはっぴょうでした。▲今日は, Cくんや, せいけさんいたくさんのアドバイスをもらったので, このしっばいをもとに, こんどがんばりたいです。
- 5月2日 しつもん 今日, 遠足で, ろくえんに行きました。
- 5月8日 天ねんきねん物のかち 今日, しごとの, 学習で, どく自学習をしました。テーマは, 「なぜ 奈良公園に, シカはいるのか, です。▲奈良のシカは, 野生ですが, 人間と, なかよくふれあえるために天ねんきねんぶつに, なっています。▲すると, 一人で, 生活できるシカとのちがいは, 人間とのふれあえるだけしかちがいないはず。
- 5月13日 きつつきの商売 今日, トマトグループの発表がありました。紙しばいになると, 紙を, よまなければいけません。すこしでもまちがえればしっばいするので, しっばいできません。でも, キャラクターを動かさなくていいので, そこは, らくだし, 場めんがよく分かります。ペープサートは, 動かすのは, むずかしいけど, 動きが分かります。ぼくたちは, ペープサートの, いいところを, いかして, 発表したいです。
- 5月16日 発表 「今日は, がんばろう」と思って, 発表に入りました。ナレーターのりゅうせいくん, うさぎのはし本さん, きつつきのCくんが, じゅんちょうに, 読んでいるなあと思っていたぼくは, その時, コーン的那んざいを, わすれていました。Cくんが, 国語の教科書の, コーンをよむ前「コーンの時, 音ならしてや」と, ちゅうこくしえくくれたのですが, コーンの手具まで, 手がとどかずならすことができませんでした。
- 5月17日 さいごの音読 しぜんグループさんは, そんなじょうしきを, うちやぶりました。何をしたかという, なんと, しぜんグループは, 紙しばいと, ペープサートを合わせて, やって, 見せたのです。でも, その分むずかしくて, 紙しばいの紙が, 一まいずつでいて, 紙を, とってから入れるまでの, 時間があつたので, どうにか, 工夫できないかな? と考えていました。でも, 思いつきませんでした。
- 5月18日 5月16日の, 日記に, 日本グループの, 発表の時, 手がとどかず, コーンの手具を, 鳴らしそこねましたと書きました。その時, 先生の, コメントで・・・▲そこで, ぼくは考えました。そして, 思いつきました。ぼくたちは, れんしゅうが足りなかったのです。はいけいと, キャラクターを, 合わせるれんしゅうは, 二回ぐらいしかできませんでした。
- 5月22日 いけん 先生は「なんで, ぼう力をふるってくるシカが, 神さまのつかいなのかな」とおっしゃいました。▲でも, それは, シカのせいではないと思います。シカを, しつめた, 人間がわるいのだと思います。
- 5月25日 いけん② ぼくがしらべてみると, シカの角切りを見るためにはお金がいるらしいです。ぼくは, 「ろくえん」は, ぼ金に, ことあっているの, 角切りを, 見たおきやくさんから, もらったお金はぼ金しているんだと思います。

- 5月26日 しごと 学習では近どうさんが「シカが奈良にいる理由は？」と、考えていました。ぼくは、そのいけんを聞いて、何かかんけいあるのかなと思って、じしょで「天ねんきねん物」と、しらべてみました。▲ぼくが思うに、シカは、人間に、なれているからめずらしい動物天ねんきねん物に、なったのだと思いました。
- 5月28日 しん聞紙 先おとといの夕かんに、しごと学習の、シカのことのがのっていました。▲そこに、書いてあったことを、自分なりにまとめてみました。
- 6月2日 しつ問 今日、子じかが生まれたからです。その時、あいご会の人は、まったくたすけに行かないのです。それは、野せいに近づけようとしているからだだと思います。
- 6月27日 しごと 先生は、OPさんの「人が、えづけをしないようにする」という、あいご会の人の、仕事について、注目していました。なぜかという、シカせんべいをあげているからです。えづけとは、エサを、食べて、ペットのような物になってしまうということです。そこで、僕は、ハッと気づきました。シカに、シカせんべいを見せると、よってくることに、もはやこれはえづけではないでしょうか。でもこれは、だいじょうぶだそうです。だから、このことについてまた考えたいです。
- 6月29日 シカせんべいのメリット シカせんべいは、シカを、ほごするために、あるそうです。なぜかという、シカせんべいをあげると、そのための、人間の食べ物などを、あげなくなるからです。
- 7月1日 しごとのどく自がくしゅう 僕は、テーマが「野生なのにどうしてシカせんべいをあげてもよいのか」▲シカが天ねん記ねん物で、その理由の中にふれ合うということが入っています。だから、シカせんべいを通して、人間とシカがふれ合える、つまり、天ねん記ねん物のかちをあげる物になるのだと思います。
- 7月2日 「やった？」僕は、も造紙を、かんせいさせました。といっても、作ると言うてから、かなり時間が、たっています。そのせいで、さいしょは、さいせんたんだった、その、発表の、そんざいがうっすくなってしまうました。
- 7月4日 立ち止まり学習 僕は、鳴りごまというところに、立ちどまりました。なぜなら、僕は、こまは動きを楽しむ物だと思っていたからです。なのに、鳴りごまは、僕たちの、じょうしきをうちやぶりました。
- 8月13日 西表じままで分かったこと お父さんが「イリオモテヤマネコのために思っている西表じまの人の活動と、シカのほごにてるんちゃう？」と、言われたので「そうだな～、つなげてみよう」と思い考えることにしました。▲イリオモテヤマネコがとび出してくるかも分からないからゆっくり走っているのです。▲さらに、奈良の人が見習うところがあります。それは、気もちです。イリオモテじまの人は、○○～○○まで、じこがありません。などを言って、しまの人のテンションをあげていきます。だからこのようなことをしたらいいと思います。
- 8月19日 ろくえんの人にインタビュー
- 9月5日 しごと しごとの学習がありました。今日のテーマは、これから学習したいことを話し合うというテーマです。▲Lくんは「シカは人間にとって何なのか」と言いました。その意見を聞いて、シカは、人間にとって何か考えました。そして気づきました。人によって、この考え方がちがうことに。▲たとえばのうかさんだったら、シカはイヤだとおっしゃると思います。なぜならのうかさんのもうけのみなもとを、食べられるのですから。でもシカは、野生なので、そんなことを知りません。
- 9月6日 しごと② 僕はKくんの次のような意見が気になりました。山にいる野生のシカは、奈良公園に入れられない、もし入れたら大へんな事になる。僕は、この意見を聞いて、おそろしいことは何なのかと考えました。それは、人へひがいをあたえることだと思えます。▲天ねん記ねん物のシカと、野生のシカのちがいは、人とふれあうことです。つまり、野生のシカは、人と、ふれ合うことが出きないのです。▲僕はもうやって見わかるのかしらべてみたいです。
- 9月21日 今考えていること 僕は、今考えていることがあります。ず～っと前の、しごとの学習で、Lくんが、「シカを見る目は、人によってちがう」と言っていました。僕は、ず～っと、その意見が気になっていて、人によって、どんな見る目があるのだろうか、考えていました。だから、インタビューするために、だれに、インタビューするかということを考えました。
- 9月24日 今日、シカよせに行きました。めんだんの時、すすきだ先生に、実行に、うつすのがおそいと、ちゅういをうけました。だから、しかよせに、奈良公園に行くついでに、いろいろな立ち場の人からみたシカという題名で、インタビューすることにしました。
- 9月27日 シカせんべい 今日、シカの行動をためしてみようというテーマで、話し合いをしました。僕は、今わだいなっているしばとシカせんべいのちがいは、何を考えていました。▲まず、僕も、シカも、生き物は、おいしい物を食べたいです。▲しかし、シカせんべいは、味がありません。しばは、食べたことはありませんが、シカにとっては、シカせんべいの方がおいしいのでしょうか。しかし、本当の、シカは、しばを、主しよくとしています。しゅしよくはしばです。だから、奈良公園のシカせんべいは、シカとふれあうためのどうぐでしかありません。

- 9月29日 まとめ 僕は、だいぶむかしの、Lくんの意見が気になっていました。その意見は、9月5日の、「シカは人間にとって」ということです。このしんそうをたしかめるべく、僕は、17日の日曜日に、インタビューしに行きました。前日僕は、だれに、聞かかというのを考えました。僕は、ろくえんの人、お店の人、かん光客の人、あとは出会った人というふうに決めました。▲けっか あいご会の人 絵をかいていたおばちゃんお店の人 人力車の大しよう▲このようなお話を聞いて、お店の人がきれいとかと思っていたら、シカのおかげでという言葉がでてきてびっくりしました。
- 10月4日 発表内よう 僕は、ずっと前の9月5日の、Lくんの、シカは人間にとっていったいなんなのかといういけんが気になっていました。だから、9月20日にインタビューしに行きました。まずは、あいご会の人です。あいご会の人「ならシカは天ねん記ねん物だから大切にしたい」と言っていました。僕は、4人ぐらいインタビューしましたが、みんな同じようなこたえでした。▲次に、お店の人に聞きました。そのお店は、食べ物やさんで、外に、食べ物を売っていました。すきかきらいかと聞くと、どっちでもないと答えてくださいました。▲何を売っているかによって、気持ちが変わることにびっくりしました。
- 10月8日 インタ
ビュー シカせんべいも、パッケージは、ぎょう者が作っていて、ぎょう者が紙を買って、その、お金は、ほきんにつかわれているそうです。つまり、ぎょうしゃさんとあいご会の人、人が、シカのために、きょう力しているということが分かりました。
- 11月2日 天ねんきね
ん物 僕は、今日の、春日山原始林とシカの共ぞんについて考えました。そこで僕は、自分の、意見をどんどんつなげて、考えをはってんさせていきました。いろいろ考えて、まずは、シカが天ねん記ねん物にしていされたといういうことから始まりました。天ねん記ねん物は守らなければなりません。するとシカはふえます。奈良公園の中だけの場所ではおさせできません。すると、春日山に出てきます。そして木を食べます。するとしぜんがこわれます。やがて、シカがしぜんをこわすことになれなくなり、おいだすと、のうかさんのところに行きます。今考えたことは、むかしはありませんでした。しかし今はあります。ということは、僕はシカがふえすぎってしまったのだとおもいます。このようなげんじょうを、あいご会さんがどうおもっているのか明日インタビューにいきたいです。
- 11月3日 けっか 今日、奈良公園にインタビューにいきました。インタビューしたのは2つです。▲一つは、ほごいきぜんいきに入っているシカの数え方は？です。もう一つは、春日山原始林と、シカの共ぞんについてどう思っていますか、またどんなたいさくをしていますか、です。▲けっか きくと、はじめのは、なんと、奈良公園と春日山原始林しか、数を数えてはいないそうです。しかも、その数え方は、一こ一こ、手作ぎょうで数えているそうです。▲②のしつもんです。それを聞くと、まずいったのは、シカが原始林にひがいをすごくあたえているというわけでもない、でした。
- 11月14日 しごと 今日はLくんが発表してくれました。もぞう紙を、8まいも書いてきていてすごなおもいました。Lくんは、あいご会の中心にいるようなそんごい石川さんに、インタビューしたそうです。▲そのけっかをきいていたなかで、のうかさんや人へのひがいをあたえないためには、シカを、かこいなんかで入れると一番こうかきでも、天ねん記ねん物でなくなってしまう。このことから、このたいさくができないことが分かります。ではこのようないさくは、ほかのものはいいのかんがえると、まずは根本てきに、シカせんべいドングリなどをあげないことが大切だと思いました。
- 11月16日 しごと 今日、5時間目に、先生がきのうのLくんの発表について、ちょろっと話していました。そのお話の中で、シカのあいご会の人の人手が足りていないからでは、ないかと言っていました。しかしCDさんはやりたいという気持ちだけであいご会は、つとまらないと言っていました。僕も、そうだと思います。インタビューしたあいご会の人にも、大学（生物）の学校から来た人です。それにあんまりないけどあいご会の人にも、きゅうりょうぐらいはあります。今でも、色々たいへんなのにこれ以上ふえたら、あいご会の人のがはさんするかもしれないのです。このように、会の人をふやすこともむずかしいし、第一かん光なので、今があいご会の人全力なんだと思います。

- 11月24日 考え 今日Fくんのしごとについての発表では、このようなことを、発表していました。その中で、かん光客の人は、シカの事を、全くと言っていいほど知りません。だからシカに、ストレスがたまるような事を、平気でしてしまいます。シカの事を知っているあいご会の人にシカを守る思いなどを聞いてくれたのがFくんです。そのお話を聞いていて、あいご会に入る前の気もちとなつてかわつた気もちとベテランになつてからの気持ちのかわりようをきいて、入つてすぐの石川さんの気持ちは、すこし、ベテランの、かん光客と同じような気持ちでした。しかし長い間シカとふれあつてきて気持ちがかかりました。それが本当の、あいご会の人々の気持ちです。▲あいご会の人々は、元からシカがすきで入つた人しかいません。そういう人にも、あいご会になる前は、同じ目線から見られません。しかし、そのシカについての知しきを使つて、あいご会になれば先ばいから知しきをうけつげます。そして、仕事を体けんすると、真のあいご会になれる。なので、かん光客の人が、あいご会の人とシカを同じ目線で見る事はむりだと思つています。しかし、近づける事は出来ます。
- 11月27日 あいご会の人々の仕事は大へんです。僕がいぜんインタビューした時にも、シカのケガのの様子を見てつれてきてなにかパソコンでやつて、人へのインタビューのうけつけをしてと、人数が少ないので、仕事で、スケジュールがつめつめです。自分の時間がありません。そのじょうきょうで、自分の時間がほしい！こんな仕事はイヤだとたいしょくしてしまいます。なので、力やスタミナがあるわかい人であつシカがすきでさらに、自分の時間がなくてもいいというかくごをもつている人があいご会をつづけられる人です。このような大へんなしごとをこなしているあいご会のわかい人に、あいご会にたいしての気持ちをインタビューしてみたいです。
- 12月1日 ポスターコンクールの真そう 今日白はせさんの発表でこのような事を、石川さんに、聞いてきました。という発表がありました。その中で一番気になつたのがポスターコンクールの真そうです。ポスターコンクールは、シカの絵を書いてじゅしゅう者をさがす大会でもありませんが、シカの事を、さらによく知つてもらふ大会でもあるのです。ポスターを書く時にやっぱり必要なのはシカにたいする知しきです。ここでシカの事を調べてあいご会の人々の事を、知つてもらふというのが作せんです。このような事を子どもに知つてもらつて、シカへのあい着をわかせる、仕事が大へんなあいご会に、入れるわかい子を育てておくというのが真そうだと思つています。
- 12月6日 角切り 今はしごとの学習でふりかえりを書いている時間です。先生の一言でふりかえり何書こうかなと思つていた僕の心はわかりました。その心を動かした先生の一言は、「角切りつてあとでますいでねむらせてほとんど切るのに決まつた何頭か切るでしょうね」です。お金をもうけるためもあります。それはノーマルな発想です。奈良公園は、かん光客がいなくなると終わりです。なのでまた来たいなあと思わせるイベントがないといけません。そのイベントこそ角切りなのです。このことから角切りなどには二つの目つきがあるかもという事が分かつたので、みんなのなべに入つておいしい具ざいになりたいです。
- 12月8日 お～ 今僕はうれしいです。新聞に書いてあつたシカの事を知れたからです。僕が新聞で見るところはテレビらんとマンガだけです。▲しかし、たまに新聞の中にすごい事が書かれていたりします。それが今日なのです。先生がくぼつてくださつた新聞には、あいご会がシカを助けるために、(あいご会の仕事のコストをへらすために)よびかけているという事が書かれていました。昔の僕たちはもつとたいさくをと言つていましたが、もう十分やつているのです。しかし、一向にへらさない事この事をあいご会さんはどう思つているのか考えたいです。
- 12月13日 12月6日の新聞を読んで考えよう 新聞には、シカの事について僕のどく自学習にふさわしい事が書かれてあります。一つは、よびかけているという事です。僕たちはシカの交通事についてのたいさくなどを考えていますが、ほとんどもうたいさくずみです。もう一つは新聞の上から二だん目に書いてある、シカがわか草山におりてくる道と時間が重なるので朝と夕方の方の家へ帰る時間と仕事場へ行く時間が事が多くなりますというところが二つ目のポイントです。▲僕は今どくじ学習をしているのはこれだけたいさくやよびかけをしているのにどうしてシカのひがいがへらさないのかです。もう大体理由は分かつています。それは自分かつてなかん光客です。

- 12月19日 ふりかえり なぜよくならないのかは、ルールを作っても守る人と守らない人がいて、守る人はよいんだけど、守らない人は、自分勝手にルールをつくって、こうつうじこをどんどんほきおこしています。考えた事実を伝えるは、あいご会の人と、おなじことを考えているけれど、やっぱり、奈良公園のかん光第一は、さからえないと思います。でも、奈良の鹿は、奈良公園の一部なので、いけんを出すことくらいはできると思いますが、でも、そうすると、なぜ鹿を守っているということが不しぎになります。なので、県に行ってインタビューしえみたいです。▲ほくが、これからやろうと思っている事は、もう一度、奈良のあいご会の所へ行って、なにかのお手つだいをしたり、いろいろないけんを出しあって、そのいけんを、ていあんしたりして、あいご会の人をたすけたいです。
- 1月17日 考えと事実 今日はどくじ学習をしました。テーマは「シカを守るかんきょうが出来ないのはどうしてだろう」です。僕はこう考えました。シカを守るかんきょうがないのは、シカを思う心がないからだだと思います。なぜならインタビューで、あいご会の人が言っていた通り、シカを思う心（シカをうやまう心）が大切だと思いました。でも、なにもシカにしてもらってないのに、シカを大切に思っして下さいと言われても、その話に耳をかたむけようと思いません。なので、かん光客の人に、かこに、シカがどんな事をしたか事実を教えてあげればいいのです。その事実こそがシカが神ろくという神せいなものという事と、昔シカはこの奈良公園の土地をもっていたのに、その土地を人間にかしてくれているのです。なのでこのような事を人に伝えることが大切です。その役目にてきしているのが、そう子どもです。なので、いろいろな人にこの事実を教えてあげたいです。
- 1月21日 しごと 今日あいご会さんにインタビューに行きました。内ようは、外国人の方や日本人の方色々な人に注意している中で、一番伝わった行動はなんですか、です。この事を聞きにあいご会まで行きました。あいご会に着きました。ドアがしまっています。「今日はないのかな」とあきらめかけていると、お父さんが「でも中の部屋の電気はついてるで〜」と言いました。だからドアを思いっきりガチャガチャしました。するとカギがあいて、うつぎさんが出てきました。あのインタビュー内ようを話す「一番いい方法はない。外国人はポスターの方が目にとまりやすい、いんしょうに残りやすい。日本人はまず近所の人とかそういう人に、教えて広めていくのがよい。とにかく正しいじょうほうを伝えてくれれば何でもいい」とおっしゃっていました。なので僕は、正しいじょうほうを身近なおじいちゃんから伝えていきたいです。
- 1月23日 しごと（内と外） 今日の5時間目のじゅぎょうが終わる時先生が「自分以外の事（外）を考えすぎじゃないですか？自分の事も考えてみましょう」とおっしゃいました。そして僕は思い返してみました。たしかにかん光客に注意する方法しか考えていませんでした。なので内の事を今回考えることにしました。内の事つまり自分の事、外国人の人とかかん光客に注意をするのに自分もしてしまうとせつとく力が全くありません。なので1人で気をつけられる事を考えました。まずは、ごみすて、そしてその次は、シカせんべいい外の物をあげない、ゴミを見つけて拾う、などがありました。▲なので、少しでもせつとく力があるように心がけたいです。僕のきづかない事があると思うので、あいご会さんにも何を心がけているか聞きたいです。
- 1月24日 している事をまねる かん光客の人は、というか人は、みんながやっている事をまねるけい向があります。みんなにシカの事をよびかける、う〜ん、それだけでは、少し息苦しいと思います。では守るにはどうすれば？▲さい初にせつ明したまねするけい向を利用するのです。今まであいご会はたくさん注意をしてきました。あいご会の一人一人は、注意した事を出来ているのにたいし僕らの中でやり始める人は、あまのいせん。そこで考えると、そのさい初にやる人を僕たちがやればいいのです。あいご会の人は仕事でいそがしくて、さい初の人になる事が出来ません。今でいっぱいなのです。▲なので僕たちがよびかけではなく行動をおこしたいです。そしてそれでみんながマネしてくれたら、りそうはげん実になると思っています。
- 1月26日 かん光・あいご 奈良公園にかん光に来ている人は、かん光をもっと楽しみたいと思っています。あいご会の人、シカを守るだけの仕事をしています。おまけとして、ポスターを作ったりしていますが、こうかはありません。本当のあいご会の仕事は、シカを守ることであり、今の悪いシカへのかんきょうをうちやぶる重大な仕事をまかせられているのは僕たちかん光客です。なので、少しでもかんきょうをよくするためには、まず自分の事から始めていくのです。▲奈良公園のシカは、というより生き物は一つ一つ役わりを持っています。人間にもそれはあります。なので僕たちはかん光客としての役わりがはたせるようにしたいです。

- 1月31日 がまんも大事 どちらも不まんなく共生する、それは、シカにとって人間にとってもむずかしいと思います。でも、どちらの方がまだいいかという、シカです。シカがする悪じの元をたどると、全ての事が人間につながります。元々は人間が悪い事をしています。だからこそ、人は大へんです。▲今、かんこう客の人などが平ゼンとした顔でやっているゴミすて、えづけ、そのふつうの事を急にやめないといけないのです。それは、かなりのがまん、決だんがひつようです。なので何の不まんもなくらすのは、むずかしいと思います。でもそれをして、シカへのふたんがへったり、あいご会のくろうがなくなったりするのなら、やるかちはあると思います。▲それをやるためには、まず、自分たちがやるひつようがあると思いました。
- 2月2日 がまんとは？ 今日奈良公園に行きました。ろくえんのでんじスペースをまずは見て回りました。ここで説明して下さった事を家に帰って考えました。▲さい初はあいご会の人が、シカがろくえんに入るのは人との共生のためと言っていました。これはまちがっていると思います。シカは、ろくえんに入れられるのと自由とでは、ぜったい自由の方がいいです。だからまずそこでシカの不まんが出てきました。さい初は僕は、人ゆうせんになっている本当にそれでいいのかと思っていました。でもがまんをまなんだ僕は、ちがいます。今の考えは、少しのマイナスがあってプラスがなりたつです。なので少しがまんするだけで、少しでも奈良公園がかわるのなら、少しぐらいがまんしたっていいと思います。こんどのまとめで、もっと友だちの話聞き少しも考えをはってんさせたいです。
- 2月5日 シカは野生 今日、じゅ業さんかんがありました。しごとの学習でした。みんなの話を聞いてみると、どの意見にも、人がやめるとい言葉が入っていました。人がやめなければいけない理由は、シカが野生という事です。▲人間には、物事をよく考える力があります。シカなどの野生には、全くないとは言いませんが、思いついた事はすぐに実行にうつしてしまうと思います。それなら、どちらが自分の行動を見直さないといけないかという、もちろん人です。でも、どれだけあいご会がよびかけてもなおられません。なので少しでもよくなるよう大人になった時、事に気をつける、今ゴミを拾うなどを心がけたいです。
- 2月7日 知ってもらおうとは 僕は、今日のしごとの学習で、先生がみんなに聞いていた、次のテーマで、シカの事を知ってもらおうとはどういう事だろうかというのに決まりました。これはどうすれば、知ってもらえるかではなく、知ってもらおうとはどういう事なのかという事です。僕は、知ってもらう、伝える、自分です、というこの三つが、奈良公園での僕たちがはたすべき役目は、人間がやるべき事が、この知ってもらうかん光客の人はこれを知るとい大事な役目それが知ってもらおうとい真ずいだと思ひます。でもこれだけではあまりまんぞくではないのでみんなの意見を聞いてもっと深く考えたいです。
- 2月8日 シカの事を知らない シカは人の事を信らいしています。かん光客の人もシカを信らいしていないとまでは、いいませんが少なくとも、シカのげんざいのきびしいじょうきょうをにんしきして、かんきょうを少しでも良くしようと思ひて行動にうつそうとしている人はほとんどいません。人はシカの事をもっと知ってあげられると思ひます。でも、かん光客の人だけのせいにするわけではありませんが人は、知ろうともしていません。かといつてむりやり教えるわけにもいきません。かん光客の人は、かん光客をたのしみたいので見知らぬほくたちに、どうこういわれて気分悪くなられてもこまるからです。なのでしぜんにきょうみをもってもらひます。でもこの考えがおもいつかないので明日の話合ひで決めたいです。
- 2月9日 今までは？ 今日、朝早くとう校した僕は先生に「今までは、奈良公園って共生出来ているのかな」と聞かれました。すぐ近くにいたBくんはできていると言ひましたが僕はほっといっていると答へました。その理由を書きます。▲今までは、シカが人全ての人が水に流してほっといっています（シカは分からない）でもこのかんきょうで、良い方向に進んで行かないのは、ぜったいです。だから今年こそ共生といかんきょうを作らないといけません。でも今までに出来ていない事なので今までにない「何か」をしなければいけません。僕が思うに、その何かは、シカを信らいし、シカを、助けてあげようと思ひ心つまり両方が、両方を思ひ、奈良公園といかんきょうを作らなければいけません。でもみんな自分で自分ゆうせんで考えています。でも思ひやるには自分い外の人に、思ひやる心が必要で、でも自分のことしか考えていないのなら、べつの生き物を思ひやる事は、もっと大へんな事だと思ひます。そこでそのきっかけにならないといけません。僕たちが、明日は、そのきっかけとはなにか考えたいです。

- 2月10日 しごと② 僕はきのうのしごとの考えのつづきを書きます。きっかけと言ってもむりやりかん光客の人にやらせても意味がありません。なぜならどんな事でもむりやり教えられた事は、すぐわすれてしまうからです。自分がやりたいと思った事をやってこそ頭に入るし、しっかりおぼえられます。僕は、きっかけとはシカがかわいいと思う心だと思います。僕の今までのけいけんで、かん光客には三しゆるいあります。一つ目「かわいいな～あ！あそこにゴミがあげよう」二つ目「かわいいゴミ落ちてるけどあげんとこ体に悪そうだし、やめとこ」三つ目「ああそこにシカがいる。シカって何食べるんだらう気になるなあよし、調べよう」▲この中で一番シカへの思いが強いのは、一の人です。でもまちがった近づき方をすると、だめです。本当にかわいいと思っている人は正しい知しきをもっていれば、悪い事はしないと思います。だから、シカは本当はイヤで、えづけをする事でたくさんの生き物がイヤがっているという事を、もっとがんばってせきにん感(プレッシャー)をあけるひつようがあると思います。明日は、プレッシャーをかけるとどうなるか考えたいです。▲僕は、プレッシャーをかけると二つの方向に行くと思います。一つ良い方向は、かんきょうじたいすごくよくなり、かん光客も、心を入れかえて今まで、オレたちは何をしてたんだ。これからは、どんどん正しいシカのためになる事をしていこうとなる。もう一つ悪い方向です。かん光客がかんちがいし、なんでおれたちだけどうこう言われなあかんねんとギャクギレする。そして、どんどんかん光客が(へ)りそれでこそ奈良公園はかいめつじょうたいになる。これからは、どうすれば良い方向にすすむか考えたいです。
- 2月15日 かん光客とは？ かん光客これは、かんたんに言えばシカにがいをあたえるそんざいです。その事は知っていますが、僕は、もっと深くほり下げようと思いましたが。かん光客は、シカをかわいいと思っています。もっと言うとは、シカと近づこうとしています。今日はシカと近づくという事について書きます。シカと、近づくには、シカにたしいての十分な知しきひつようです。知しきをもっていると、シカとたしいせし方が出来て、あげるエサは、どんぐりとシカせんべいをあげます。でも今のかん光客のげんじょうは、シカの知しきがなく、むりに近づこうとするから、ひがいがありません。そこで、僕たちは、のうにやきつくような方法で、シカの事を、してもらわなければいけません。僕は、まだいけんが出来ていないので、とことんほり下げていきたいです。そして意見を作りたいです。
- 2月16日 共生とは？ きのうのお母さんのコメントを読みました。▲(共生できている状態とは、鹿が人とほぼ同じ生活けんで暮らしている状態のことではないの？関わりすぎない程度に、でもほっておくわけではないエイドにつきあってこれるのでは？どうですか?) ▲やはり僕の中の共生は、ハードルが高くてお母さんのハードルは低いです。僕のハードルは、たっせいしていないけど、お母さんのハードルは、シカせんべい、あいご会などの手助けもあって、なんとかせいこうしています。もちろんこのまでもいい事はいいのですが、シカが、交通事こ、えづけなどでなやまされているのを、ほっとけないと思います。あいご会の人手いっぱいです。そういう所で共生のレベルを上げていかないといけないと思います。(なるほど、レベルを高くするのですね)
- 2月21日 レベル 前回の日記で、シカをなやませている事をどうすればいいか書いていました。それもそうだけど共生のレベルについてももう少しほり下げようと思います。今もおじょうたいでも共生と言えば、共生は出来ています。これと同じじょうたいが近づけばいいのだけど、僕は、年がすぎていくたびに、共生のレベルがどんどんさがっていってしまう気がします。今は、人も、シカも、どちらももうかた方からひがいを受けています。いつか今でもぎりぎりなのに、そのぎりぎりから、ずっとこれが近づいていっていると、たもてなくなるのではないかと考えます。そのためにも、レベルを上げるひつようがあると思います。その方の不まんをすべてなくす事は出来ないかもしれないけど、少なくするというのがレベルをあげるというところだと思っています。
- 2月26日 しごと ひさしぶりにしごとの事を考えようと思います。レベルというので、今のままの共生レベルでも、このままづいていたら、いいと思います。(共生出来ると思います)でも、奈良公園に来るかん光客がもっとふえると、いずれシカにもっとストレスが来て、共生というぎりぎりのレベルがたもてなくなると 생각합니다。どちらにしろ、これからかん光客はふえていきます。そして共生というバランスは、だんだんくずれていきます。なら今のうちに、少しでも共生のレベルを上げるひつようがあります。しかし、もうやるべきことはやっています。それなら、まだやるよちがある、僕たちがどんな方ほうでもいいのできおくにのこるように、伝えたり突っさいこう動にうつつたりしなければいけないとおもいます。

- 3月14日 これで終
わったのか 今日校外学習に行きました。▲僕たちは、学習のさいごとして、外国人の人にシカの事を伝えるということでしたがはたしてこれで終わったのでしょうか？僕は終わっていると思います。今回自分たちが言ったことを、こんな事聞いてんとまわりの人に教えてくれたら、どんどん広がるし、たくさんの人に、シカの事を、知ってもらおうが目玉なので、たっせい出来たと思います。だから明日この学習のまとめをします。
- 3月15日 シカの事を
知ってもら
うとは 今日はまだきのうの日記にまんぞくがいていないので、もう一度シカの事について考えました。思い返してみると、外国人の方は僕たちが話している時すごくねっ心にお話を聞いて下さいました。中には、かん光客がわから僕たちの所に来て、お話を聞いて下さいました。僕たちは、まずマイブックについて話しました。その後シカの事を話し始めます。すると、大げさかもしれませんが、シカの事を言うと外国人の方の目がキラキラしているように見えました。それを言ったおかげか、シカ注意のかんばんなどもねっしんに見てくれていました。だから僕はこれまでの事から外国人の人は、奈良の事を、シカの事をもっと知りたい。でも、どうせ日本に来たんだから何かべつの事をしたかざられた時間の中で、シカのためだけに、この時間を使いたくない。そういう人がいます。その中であいご会の人はシカの大切さを伝える、奈良公園のかんきょうを守る、という仕事があります。▲僕たちが大人になった時一人一匹をたすけたとして、33匹はたすかる僕たちはそれでまん足と書いていました。なら今回伝えた外国人の人のだれかがシカを助けてくれたならそれもいいです。大きいけっかをもとめなくてもいいので少しでも、シカが助かったらいいと思います。
- 3月16日 ふりかえり 今回、僕は今の自分のできるせいっぱいと言いました。でも僕は、少しのシカが助かればいいあまり大きいけっかをもとめなくてもいいからという所を僕は、言えませんでした。そこだけちょっといけなかったけど僕は僕なりにがんばったつもりです。これからだと、もしかして、外国人の人に伝えるというきかいはもうないかもしれません。でも僕はこれからもシカを守って行きたいし、伝えられる所には、伝えていきたいです。僕はあいご会でもないし今は、シカの知しきとシカを、守りたいという想いしかないけどもっと大人になったらいろいろな事ができるようになると思うし、たくさんシカのために出来る事はふえてくるとおもうので、僕はこれからも、その時の自分に出来る事をやっていきたいです。そしてこれからもシカを守って行きたいです。
- 3月16日 さいごのし
ごと 今日、ラスト、三年生で、さいごのしごとの学習をしました。きのうめっちゃ頭をふりしぼってすごくがんばって考えた考えを伝えるさいごのときでした。僕は、じゅんばんに意見を言いました。僕たちが今のじょうたいでできるさいだげんの事をやったからこれからも伝えていくけどさきおとついやった事にはまんぞくしている言いました。僕のように、きのう日記にいっしょうけん命書いた事を、みんな発表していました。僕は、今回三年生にふさわしい学習が出来ました。これからもシカを守っていききたいし、三年生と同じようにテーマに、くわしく一生けん命とりくんでいきたいです。
- 手紙 あいご会の方今までありがとうございます。もしも、あいご会の方がいなくて、シカのじょうほうを教えてもらえなかったら、今の僕たちにこんなにシカを守りたいという思いは生まれたなかつたと思います。急がしい所で、真けんに聞いてくださったので聞きたい事を全て、聞く事が出来ました。▲さい初僕はシカがそれほど好きでもなかつたし、もちろんあいご会というそんざいすら知りませんでした。でも奈良の名物はシカというのは知っていました。こんな中シカの学習が始まりました。さい初はかん光客のえづけが問題になりました。僕はシカせんべいしかあげていませんが、かん光客の人がシカせんべい以外の食べ物にあたえそれによって、シカが死んでしまっている事におどろきました。あいご会の方からしりょうをもらい、シカの死ほうげんいは、えづけだけではない事を知りました。それは「交通じこ」です。シカの死ほうげんいは、主にこの二つだと知りました。そこで、この二つをなくすにはどうすればいいか考えました。交通事こは、前をよく見ないと、とび出してくるシカに気をつけないという事で起こるからそれを気をつけるように書いたかんばんを立てればいいというふうな考えになりました。でもあいご会の方はもうすでにやっています。でもかん光客はシカへの意じ悪をやめません。どうやったらきょうみをもってもらえるだろう何を伝えたいのだろうと考えました。そしてさいごはやっぱり、自分たちが国さいの学習のえいごで伝えようというけっかになりました。外国人の方に聞くと、真けんに自分たちのお話を聞いてくれる方が多かつたです。そして僕はシカの事を伝えただけかがシカを助けてくれたらそれでもいいと思いました。僕はこれから大人になってもずっとシカのためになる事をしようとおもいます。だからあいご会の方も、これからも「共に生きる」というかんきょうをめざしてがんばってください。さようなら僕はこれからもシカを守ります。

* 本研究は科研（2016-2019）「教科道徳を視野に入れた小学校社会科中学年授業モデルの構築（基盤C: 16K04662）」の助成を受けた。

平成30年3月30日 受理

What is a lesson?;
A Study on Life Practice by Children who Reached
Structural Understanding by "Learning Method of Nara"

Yoshihiro TAMEIKE